

平成25年度 群馬県キャリア教育推進事業「未来を拓く特別授業」一覧

※左のしおり部分に表示されている学校名をクリックすると授業実践の概要を閲覧することができます。

NO	市町村	学校名	実施日	授業名（活動名）	講師職業等	実施学年	教科等
1	前橋市	桃井小学校	2月13日	未来を拓く特別授業	僧侶	第6学年	学級活動
2		岩神小学校	11月29日	誕生学講座	誕生学アドバイザー	第6学年	学級活動
3		二之宮小学校	3月7日	未来を拓く特別授業	演奏家・音楽講師	全学年	特別活動
4		勝山小学校	1月10日	地域の先輩の話を聞こう	自動車整備士	第5学年 第6学年	学級活動
5		山王小学校	10月22日	将来の設計図を作ろう	企業経営者	第6学年	総合的な学習の時間
6		北小学校	2月19日	生き方講座	二胡奏者	第3学年 第4学年 保護者	総合的な学習の時間
7		北小学校	2月21日	日本の伝統文化に触れよう	大学教授	第5学年	総合的な学習の時間
8		茂呂小学校	7月5日	JICA国際協力出前講座 青年海外協力隊に参加して	元青年海外協力隊員	第5学年 第6学年	総合的な学習の時間

平成25年度 群馬県キャリア教育推進事業「未来を拓く特別授業」一覧

※左のしおり部分に表示されている学校名をクリックすると授業実践の概要を閲覧することができます。

NO	市町村	学校名	実施日	授業名（活動名）	講師職業等	実施学年	教科等
9	伊勢崎市	広瀬小学校	10月3日	ちいちゃんのかげおくり	資料館学芸員	第3学年	国語
10		広瀬小学校	11月6日	日本語教師の仕事とは	大学講師	第6学年	総合的な学習の時間
11		広瀬小学校	2月20日	将来の夢について語ろう	プロバスケットボール選手	第6学年	総合的な学習の時間
12		広瀬小学校	2月28日	命を育む講座	助産師	第5学年	道徳
13		宮郷第二小学校	10月10日	戦争時のくらしを知ろう	資料館学芸員	第3年生	国語
14		宮郷第二小学校	10月31日	長く続いた戦争と人々のくらし	博物館学芸員	第6年生	社会
15		赤堀南小学校	2月13日	宮大工さんから学ぼう ～「千年の釘にいどむ」～	宮大工	第5学年	総合的な学習の時間
16		赤堀東小学校	6月7日	いろいろな生き物が集まる ビオトープにしよう	ビオトープ管理士	第3学年	総合的な学習の時間

平成25年度 群馬県キャリア教育推進事業「未来を拓く特別授業」一覧

※左のしおり部分に表示されている学校名をクリックすると授業実践の概要を閲覧することができます。

NO	市町村	学校名	実施日	授業名（活動名）	講師職業等	実施学年	教科等
17		赤堀東小学校	9月27日	いろいろな生き物が集まる ビオトープにしよう	ビオトープ管理士	第3学年	総合的な学習の 時間
18		赤堀東小学校	11月14日	いろいろな生き物が集まる ビオトープにしよう	ビオトープ管理士	第3学年	総合的な学習の 時間
19	渋川市	渋川西小学校	1月21日	社会人講話	1級建築士	第6学年	総合的な学習の 時間
20	玉村町	芝根小学校	1月17日	夢をもって (青年海外協力隊に参加して)	看護師	第6学年	総合的な学習の 時間
21		南小学校	10月24日	邦楽教室	箏師範	第5学年	音楽
22	高崎市	西小学校	9月19日	将来の夢を考えよう	大学駅伝部監督	第6学年	総合的な学習の 時間
23		西小学校	10月4日	将来の夢を考えよう	自動車会社社長	第6学年	総合的な学習の 時間
24		西小学校	11月25日	将来の夢を考えよう	プロ野球 ヘッドコーチ	第6学年	総合的な学習の 時間

平成25年度 群馬県キャリア教育推進事業「未来を拓く特別授業」一覧

※左のしおり部分に表示されている学校名をクリックすると授業実践の概要を閲覧することができます。

NO	市町村	学校名	実施日	授業名（活動名）	講師職業等	実施学年	教科等
25		新町第二小学校	2月20日	新町の歴史を学ぼう	元小学校長	第6学年	総合的な学習の時間
26	藤岡市	小野小学校	1月17日	未来を拓く特別授業	靴職人、自動車販売店営業、剣道具職人、介護福祉士、ビルメンテナンス、歯科技工士	第6学年	総合的な学習
27		鬼石小学校	2月10日	地域の歴史・文化を学ぼう	自動車販売 治験施設支援機関	第5学年 第6学年	総合的な学習の時間
28	上野村	上野小学校	6月19日	朗読劇	朗読劇グループ	全学年	道徳
29	神流町	万場小学校	1月27日	夢に向かって生きる	建設業 葬祭業 学芸員	第6学年	総合的な学習の時間
30	東吾妻町	坂上小学校	1月22日	寺澤 敬子	読み聞かせグループ	第5学年	国語
31	桐生市	北小学校	10月7日	山中 千尋	ジャズピアニスト	全学年	学校行事
32		蕨川西小学校	11月26日	自分探し～将来の自分を見つめて～	新聞社総局長、弁護士、旅行業務取扱者、美容師、看護師、調理師	第6学年	総合的な学習の時間

平成25年度 群馬県キャリア教育推進事業「未来を拓く特別授業」一覧

※左のしおり部分に表示されている学校名をクリックすると授業実践の概要を閲覧することができます。

NO	市町村	学校名	実施日	授業名（活動名）	講師職業等	実施学年	教科等
33	太田市	城西小学校	2月6日	12の贈りもの	朗読ボランティア	第6学年	国語
34		綿打小学校	9月24日	美しく表現するために	体操教室 インストラクター	第6学年	総合的な学習の 時間
35		南小学校	11月8日	未来を拓く特別授業 「夢をかなえるために」	ヴァイオリニスト	全学年	特別活動
36	みどり市	笠懸小学校	2月20日	進路学習	小学校教員	第6学年	総合的な学習の 時間
37	前橋市	第六中学校	10月10日	キャリア教育講演会	理学博士	第3学年 保護者	学級活動
38		第六中学校	10月30日	キャリア教育講演会	富岡製糸世界遺産 伝道師協会会長	全学年	学校行事
39		第六中学校	2月7日	キャリア教育講演会	会社社長	第1学年 保護者	学級活動
40		春日中学校	9月17日	先輩の話から学ぶ	卒業生（高校生）	第3学年	総合的な学習の 時間

平成25年度 群馬県キャリア教育推進事業「未来を拓く特別授業」一覧

※左のしおり部分に表示されている学校名をクリックすると授業実践の概要を閲覧することができます。

NO	市町村	学校名	実施日	授業名（活動名）	講師職業等	実施学年	教科等
41		春日中学校	11月26日	進路シンポジウム	会社社長 専門学校講師	第2学年	総合的な学習の時間
42		宮城中学校	11月15日	Bエネルギー変換に関する技術	研究所職員	第2学年	技術・家庭科
43	伊勢崎市	殖蓮中学校	9月17日	働くことの意味	製造業開発職	第2学年	総合的な学習の時間
44		あずま中学校	6月26日	古典との出会い	大学教授	第2学年	国語
45		あずま中学校	6月26日	古典との出会い	大学教授	第3学年	国語
46		あずま中学校	7月5日	よい人間関係をつくるために キャリアウィークに向けて身につけておきたいこと	研修部長	第2学年	総合的な学習の時間
47		あずま中学校	9月19日	『あずま』から海外へ	グローバル人材育成	第2学年	総合的な学習の時間
48		あずま中学校	10月11日	夢をもって生きる	製造業開発職	第1学年	総合的な学習の時間

平成25年度 群馬県キャリア教育推進事業「未来を拓く特別授業」一覧

※左のしおり部分に表示されている学校名をクリックすると授業実践の概要を閲覧することができます。

NO	市町村	学校名	実施日	授業名（活動名）	講師職業等	実施学年	教科等
49		あずま中学校	10月18日	日常生活の中に見られる古典的伝統	大学教授	第1学年	国語
50		あずま中学校	11月29日	正しい性の知識	クリニック院長	第2学年	保健体育
51		あずま中学校	3月4日	夢に向かって生きる	大学駅伝部監督	第2学年	総合的な学習の時間
52	高崎市	吉井中央中学校	2月10日	立志のつどい	高校野球部監督	全学年	学校行事
53		東中学校	6月18日	社会人に聴く会	ガス販売会社社長 住宅外壁施行会社社長 写真館経営	第2学年	総合的な学習の時間
54		東中学校	7月9日	マナー講習会	製造業	第2学年	総合的な学習の時間
55		北中学校	7月11日	職業人から話を聞く会	販売員 消防士	第2学年	総合的な学習の時間
56		北中学校	8月20日	マナーアップ講習会	製造業	第2学年	総合的な学習の時間

平成25年度 群馬県キャリア教育推進事業「未来を拓く特別授業」一覧

※左のしおり部分に表示されている学校名をクリックすると授業実践の概要を閲覧することができます。

NO	市町村	学校名	実施日	授業名（活動名）	講師職業等	実施学年	教科等
57	藤岡市	小野中学校	5月22日	球技大会を成功させる絆づくり	日本ピア・サポート 協会会長	全学年	特別活動
58		小野中学校	6月5日	社会人としての条件を学ぼう	製造業	第2学年	総合的な学習の 時間
59		小野中学校	6月12日	社会人から学ぶ会	写真館経営 農業 消防士	第2学年	総合的な学習の 時間
60		小野中学校	7月10日	社会人としての条件を学ぼうⅡ	製造業	第2学年	総合的な学習の 時間
61		西中学校	7月3日	マナーアップ教室	製造業	第2学年	総合的な学習の 時間
62		鬼石中学校	7月4日	マナー講習会	製造業	第2学年	総合的な学習の 時間
63	富岡市	西中学校	10月31日	キャリア教育（生き方教育）	製造業	第2学年	総合的な学習の 時間
64	東吾妻町	坂上中学校	7月4日	未来を拓く特別授業	CPプログラマー 金融業 運輸業 菓子製造業	第2学年	総合的な学習の 時間

平成25年度 群馬県キャリア教育推進事業「未来を拓く特別授業」一覧

※左のしおり部分に表示されている学校名をクリックすると授業実践の概要を閲覧することができます。

NO	市町村	学校名	実施日	授業名（活動名）	講師職業等	実施学年	教科等
65	沼田市	沼田南中学校	8月26日	3年進路学習会	卒業生（高校生）	第3学年	総合的な学習の時間
66	桐生市	境野中学校	9月25日	職場体験に向けて	木工業	第2学年	特別活動
67		梅田中学校	9月24日	職業講話	介護職員 CPエンジニア	第2学年	総合的な学習の時間

(様式3)

平成25年度「未来を拓く特別授業」実践報告書

学 校 名

前橋市立 桃井小学校

講師氏名等(職種)

小出祥弘 (僧侶)

実施日	平成26年2月13日	対象学年等	6年(55人)
教科等	学級活動	授業(活動)名	未来を拓く特別授業

○実践の概要

6年生全員を対象に学校公開日の日に合わせて、実施した。保護者の方も30名ほど参観なさっていたので、その後の懇談会の際に話題に出すこともできた。

先生の幼少時代から現在に至るまでの話をユーモアたっぷりに、時には真剣な眼差しでお話しされ、児童も話に聞き入っていた。あきらめずに何にでもチャレンジすることで将来への選択肢を今から増やしておくことはとても大切であるということを見事に伝えてくださった。教員をやっていた頃の日本人学校での経験や雅楽の演奏、トランペット演奏、マジック等もまじえて、45分間があっという間に過ぎた。



○実践の成果

たくさんの画像、楽器の演奏などもまじえながらのお話だったので、児童も楽しみながら聞いていた。「やる気スイッチを入れてやってみたいことは、とりあえずやってみる。すぐあきらめるのではなく、とりあえず、3日、そして30日、3ヶ月、300日、3年」3という数字がキーワードになるとおっしゃっていた。先生がおっしゃった具体的な数字は、児童の「やってみようかな。」という意欲を喚起したようだ。

以下、児童の感想をいくつか紹介する。

☆私達もやる気になれば、色々なことができることが分かった。また、「色々なことにチャレンジする」大切さを知ることができた。私にとって一番心に残ったことは、「私たちはすごい可能性を持っている」ということ。子供のうちに自分が好きなこと、続けられるようなことをみつけておきたいと思う。また、先生のように一度やってみてだめでもいいから進んで色々なことに取り組む姿勢を目指してがんばりたい。先生が伝えたかったことは、きっと「可能性を広げて自分が本気でがんばれることをみつけてほしい。」ということだったと思う。

☆自分の将来の生き方に生かせると思ったのは何ごとでもチャレンジすることがとても大切だということ。大切な3つのキーワードは、「あいさつ」、「掃除」、「素直な心」と言っていた。今すぐでも中学校でもとても大切なことだと思うので、きちんと身に付けたいと思った。また、3という数字のことで、3日、3週間とだんだん伸ばしていくとよいというのには、納得した。すぐにやめてしまうのを防げることなので、私もためしてみたいと思った。

平成25年度「未来を拓く特別授業」実践報告書

学校名 前橋市立岩神小学校
 講師氏名等(職種) 井上 昭子 (誕生学アドバイザー)

実施日	平成25年11月29日	対象学年等	6年(67人)
教科等	学級活動	授業(活動)名	誕生学講座

○実践の概要

・誕生学の講座は、PTA学年行事として6年児童と保護者を対象に行われた。赤ちゃんゲストとお母さんを招いて、児童と触れ合う時間を設けた。赤ちゃんの写真(お腹にいるとき)や成長記録などを見せていただき、お母さん方から赤ちゃんの特徴や様子を紹介してもらった。赤ちゃんの命を授かり、誕生するまでの間、赤ちゃんに対してどのような思いを持っていたか、そして、誕生した時の気持ちや子育てをしている現在の思いについて話をしてもらった。



・赤ちゃんやお母さんとの触れ合いを終えて、その後には、誕生学講師から、命の誕生について話を聞いた。

生命の誕生の仕組みやお母さんのお腹の中で、赤ちゃんが、どのように大きく成長していくのか、プロジェクターに映し出された映像から知ることができた。

また、実物大の人形を使い、どのようにして、出産が行われるか、説明していただいた。

お母さんのお腹の中で行われる出産準備の仕組み、そして、赤ちゃんの誕生の仕組みは、まさに、お母さんと赤ちゃんとが一体となった体の働きであることを理解することができた。

○実践の成果

誕生学の学習の中で、赤ちゃん愛らしさに触れ合うことができた。遠巻きに様子を見るだけだった児童も、赤ちゃんを抱いたり、おやつを食べさせたり、泣いている赤ちゃんをあやしたりする姿が見られた。赤ちゃんとの関わりを通して、児童・保護者相互の会話も生まれた。児童も保護者も、みんなが笑顔になった時間だった。自分にも、こんな時期があったことを感じ取ることができた。

- *自分が生まれたことは、家族に喜んでもらっていたことを知ってうれしかった。
- *お母さんが大変なおもいをして産んでくれたこと、そして育ててくれたことが分かって、「ありがとう。」と言いたい。(児童の感想)
- *かわいらしい赤ちゃんを見てみると、十数年前の我が子を思い出した。6年生になった子どもの成長の大きさを感じた。子どものよさを認めて、成長を見守りたい。
- *子どもに赤ちゃんの頃の様子を話してあげたい。(保護者の感想)

誕生学の学習で、児童は、命の誕生の仕組みや大切さを学ぶとともに、自分の誕生が家族に望まれていたことを知ることができ、自己肯定感をもつことができた。

保護者とともに学ぶことで、親と子お互いのつながりや大切さを再認識できた。

(様式3)

平成25年度「未来を拓く特別授業」実践報告書

学 校 名 前橋市立二之宮小学校

講師氏名等(職種) 船津亜希子・牧田朋美・木下真由美・
横堀 翼・高坂真斗 (音楽:演奏)

実施日	平成 26年 3月 7日	対象学年等	全学年 (239人)
教科等	なかよしタイム	授業(活動)名	未来を拓く特別授業

○実践の概要

「6年生を送る会」の学校行事の一環として、フルート・クラリネット・トランペット各1名、ピアノ2名の計5名の音楽家たちによる演奏会形式で開催した。5名の講師はいずれも音大現役生・卒業者で、現在は音楽講師や演奏家として東京や地元で活躍している。クラシック曲からディズニー曲まで、幅広い選曲で誰もが一度は耳にしている曲が多かったので、聴きやすく楽しめるプログラムであった。途中インタビューや質問コーナーを設け、音楽をやっていく上での苦労や喜び、大切にしていること、これからの夢など、児童に必要であろう情操教育を学ぶ場としてよい機会を設けることができた。また、講師達から6年生へとして、「旅立ちの日に」を6年生の担任も加わっての演奏をしていただき、卒業に向けて花を添えていただいた。

○実践の成果

6年生を送る会後の6校時に行われたにもかかわらず、1年生から6年生までの児童が静かに聴くことができた。フルートやクラリネット・トランペットを実際近くで目にして、楽器から出される音に目を見張っている児童も多くいた。演奏中に低学年の場所にトランペット奏者が近づくと、一斉に手を振り返すなど、どの児童も音楽を心から楽しんでいただけたようだった。インタビューでは、「音楽を始めたきっかけ」「音楽をやっていてよかったこと」「これからの夢は」などに講師はわかりやすく丁寧に子供たちに話していた。演奏することで、聴衆の心に何らかの感動を呼び起こせることが演奏者としての一番の喜びであり、また夢を持つことの大切をどの講師もみな語っていた。児童からの質問コーナーでは、「どのくらい練習するの。」「弾けるようになるまでの期間は。」から「なぜ音楽をやるのか。」まで様々な質問が飛び交い、お互いが楽しく交流することができたようだった。どの児童も最後まで飽きずに笑顔で、また真剣に音楽に耳を傾け、『音楽は心を豊かにさせる。』という言葉通りの特別授業になった。

～当日の流れ～

- 14:10 講師入場・授業開始(演奏会)
インタビュー等はさんで
- 14:50 授業終了

曲目: ・アルルの女より「メヌエット」

- ・クラリネットポルカ
- ・トランペットヴォランタリー ～インタビュー
- ・革命のエチュード
- ・ディズニーメドレー(連弾) ～質問コーナー
- ・トランペット吹きの休日
- ・花のワルツ(アンサンブル)

6年生へ向けて・旅立ちの日に(6年担任と共に)



(様式3)

平成25年度「未来を拓く特別授業」実践報告書

学 校 名 前橋市立勝山小学校

講師氏名等(職種) 大井 学(自動車整備士)

実施日	平成26年1月10日(金)	対象学年等	5、6年(110人)
教科等	学級活動	授業名	地域の先輩の話を聞こう

○実践の概要

講師の大井学さんは、本校出身の先輩で、昨年度のPTA会長を務めた方である。勝山小学校が開校した記念すべき年の新入生でもあり、今回はキャリア教育の一環として、高学年の児童で話を聞くことにした。



【講話の内容】

- ・パワーポイントで開校当時の写真をスクリーンに映写しながら、「真新しい校舎でうれしかったが、周りは田畑ばかりで校庭には何もない状態だった」「校歌の作詞者は初代校長の近藤先生であった」「敷地内にある多くの樹木は、地域の方々の寄付で植えられた」など、当時のエピソードを話していただいた。
- ・小学校時代はとても活発な子で、少年野球や剣道をやっていた。5年生の担任の先生から、「人のためになりなさい」と言われたことが心に残っていて、人に迷惑をかけないようにすることが大切であると胸に刻んで生活してきた。
- ・第六中学校では柔道部と相撲部の掛け持ちで活躍した。厳しい練習のもとで好成績を残すことができたが、顧問の先生や地域の人にたくさん面倒を見てもらい、周りの人々に支えられていることを学んだ。「やらされて稽古しているうちは伸びない」「心身ともに成長する中学では、一生懸命やったことが必ず後で生きる」と話してくれた。
- ・高校へは柔道で進学したが、怪我で思うような成績を残せなかった。高校卒業後、乗り物好きを生かして自動車整備士の仕事に就いたが、国家資格を取るのに苦労した。工業高校への進学を検討するなど、早くから将来を見据えることも大切である。
- ・勝山小学校のPTA会長だけでなく、総社地区の育成会長も経験され、地域では太々神楽や獅子舞の後継者として、地域の伝統文化を引き継ぐことに尽力されている。

○実践の成果

■話を聞いた子どもたちは、「開校当時の学校の写真を見たり、エピソードを聞いたりすることができて、知らないことがよく分かった」「『人のためになりなさい』というメッセージを忘れずに、今でも地域で活躍していることがすごいと思った」などの感想が聞かれた。

■地元で活躍している先輩の体験談を直接聞くことで、その人の生き方や地域に対する深い思いにふれることができ、自分自身の生き方や考え方を考える契機となった。

■講話の概要については、学校だよりやホームページに掲載して、保護者等に広く周知した。



(様式3)

平成25年度「未来を拓く特別授業」実践報告書

学 校 名 前橋市立山王小学校

講師氏名等(職種) 高橋万太郎 (「職人醤油」経営)

実施日	平成25年10月22日	対象学年等	6年(93人)
教科等	総合的な学習の時間	授業(活動)名	「将来の設計図を作ろう」

○実践の概要

サラリーマンをやめ、経営に興味を持ち、日本の伝統文化「醤油」を広めるため「職人醤油」を立ちあげた高橋万太郎さんをお招きしてお話をうかがいました。小さい頃からの夢、そしてその学齢ごとの思いを交え、自分に合った仕事を見つけることの重要性を力強くお話してくださいました。

○実践の成果

児童の意識の中で、仕事・職業について漠然とした負のイメージが大きく転換され、「仕事とは、自分で目標を定め、その目標に向かって一歩ずつ成長し続けるための活動である」ということを児童一人ひとりが、希望とともに感じ取れた有意義な講演となりました。

(児童感想より)

- ・高橋さんの話を聞いて今のうちにいろいろな職業を調べて、高橋さんみたいに自分が夢中になれる職業を見つけたいと思いました。
- ・高橋さんは、今は休みがなくて仕事は大変だけれど「むしろもっと働きたい」と言っていました。ぼくは、好きな仕事だから楽しいのかなと思いました。ぼくも大人になったら自分の好きな仕事をしたいです。
- ・「お給料は関係ない。自分の会社を大きくしたい。日本人に欠かせない醤油をつきつめたい。」という醤油への思いを私達6年生に話してくれました。高橋さんの話を聞いて今の夢をどのように実現していくか。いろいろなことをもっと知りたいと思いました。
- ・高橋さんは、社会人になってからもいろいろな経験をして、今自分のやりたい仕事が決まって楽しくやれていることがすごいと思いました。仕事というと大変なイメージでしたが話を聞いて考えが変わりました。ぼくも夢を持って楽しく人の役に立てる仕事をしたいです。



(様式3)

平成25年度「未来を拓く特別授業」実践報告書

学 校 名 伊勢崎市立北小学校

講 師 氏 名 高山 賢人先生 (二胡奏者)

実施日	平成26年2月19日	対象学年等	3・4年とその保護者(305人)
教科等	総合	授業(活動)名	生き方講座

○実践の概要

高山さんのプロフィール紹介から始まり、まず二胡という楽器を紹介してもらった。そして綺麗な音色で、中国の伝統曲である「空山鳥語」と「賽馬」を演奏して聴かせていただいた。児童がよく知っている曲も含めて演奏してくれて、その音色の美しさに子どもたちは聞き惚れていた。演奏後は、講演会となりいろいろな話を堅苦しくなく話していただけた。まず、二胡との出会いは、小学校4年生の時にテレビで見て、その美しい音色に魅了されたことから始まる。その後両親に頼んで二胡を購入したが、教えてくれる人がいないので、自力で調べながら演奏方法を学んでいった。初めて人前で演奏したのが、老人ホームの方々に前にした「夕焼け小焼け」で、涙を流して喜んでくれた人がいて嬉しかったということである。

子どもたちに対しては、まず自分で夢を見つけること、そしてその夢をつかむための努力をすることが大切であること話していただけた。努力の方法は、決してあきらめないうで、結果よりも努力を大切にすること。このような努力を続けていくといい結果が出てくるはずであるということも教えていただけた。また、夢を自分の力で掴み取るために大切な事として「①時間を大切にすること②人とのつながりを大切にすること③自分を大切にすること」を心に刻んで、これからも努力を継続してほしいと話された。

終わりに、新しい春に向かう子ども達へのメッセージとして、オリジナル曲の「それぞれの春へ」を演奏していただいた。

○実践の成果

質疑応答の時間に、子どもたちから「この楽器の仕組みはどうなっているのですか」という質問が出た。これに対して高山さんは、二胡の部分を示しながら音の出る仕組みを説明してくれた。

実施後の児童のアンケートでは、「人との出会いを大切にするというのは、とても大事だと思いました。」「夢を実現するたくさんのアドバイスを聞いて、とても感動しました。」「まだ、夢は1つに絞られていないので、夢を見つけて、それに向かって努力します。」など、将来の夢や希望に向かって頑張ろうとする意欲が高まった。



(様式 3)

平成 2 5 年度「未来を拓く特別授業」実践報告書

学 校 名 伊勢崎市立北小学校

講 師 氏 名 藤本 宗利先生 (群馬大学教育学部教授)

実施日	平成 2 6 年 2 月 2 1 日	対象学年等	5 年 (6 9 人)
教科等	総 合	授業(活動)名	日本の伝統文化に触れよう

○実践の概要

日本の伝統文化に触れて興味・関心を高めるとともに、研究職としての大学教授の話聞き、将来の夢や希望について考えることを目的とした授業である。まず、なじみ深い百人一首の紹介から始まり、平安時代の生活や文化について、児童の興味・関心を喚起した。その後、平安文学の研究をされている群馬大学教授藤本宗利先生を紹介して、お話を伺った。平安時代の文字について学習し、百人一首を全員で読む活動を行った。「変体仮名」の説明では、今のひらがなの違いを詳しく指導いただいた。その後、読み札に描かれている当時の服装に注目して、ひな人形の服装を観たり、実際に装束を試着させていただいたりして、昔の文字や衣装に興味を持ち、日本の伝統文化への関心を深めた。終わりに、大学教授になった理由と主な仕事について話していただき、将来の夢や希望について考えることの大切さを教わった。

○実践の成果

質疑応答の場面では、「そんなに重ねて重くないのか」「今の価値ではいくらか」「もを引きずってしまいそうだが、外を歩くときはどうするのか」などの質問が出た。また、「当時の男の人の服装は」との質問には、用意しておいたひな人形の男びなを示しながら詳しく説明して下った。藤本教授は、それぞれに質問に丁寧に分かりやすく答えてくださり、昔から現代まで変わってきているものとそのまま受け継がれているものなどがあるということが良く理解できた。教室に戻って、「大学の教授に会ったのは初めて」「実際に博士という人を見たのは初めてだが話がわかりやすかった」などの感想が聞かれた。大学などの高等教育や教えるという仕事について興味が高まったようである。また、「早く歴史を勉強したい」という感想も多かった。児童は、今回の学習を通して、楽しく伝統文化に触れるとともに、将来に向かって夢や希望を広げていくことができた。



(様式3)

平成25年度「未来を拓く特別授業」実践報告書

学 校 名 伊勢崎市立 茂呂小学校

講師氏名等(職種) 茂木 慎太郎 (元青年海外協力隊員)

実施日	平成 25年 7月 5日	対象学年等	5, 6 年 (236 人)
教科等	総合的な学習の時間	授業(活動)名	JICA国際協力出前講座 青年海外協力隊に参加して

○実践の概要

JICA群馬デスクに講師派遣を依頼、「JICA国際協力出前講座」という形で実施した。講師の茂木慎太郎さんは、青年海外協力隊員として、2年間南太平洋のサモアで柔道強化コーチとして指導にあたった方である。

当日は、6才で柔道を始め、18才で交換留学生として海外に出たことから始まり、2ヶ月間の派遣前訓練、赴任地サモアの風土や食べ物、柔道コーチとしての活動などについて、パワーポイントを使って豊富な写真や動画を紹介しながらのお話であった。

○実践の成果

児童は、サモアの風土や文化について興味深く話を聞いた。特に、柔道のコーチとしてオリンピックチームに帯同し、ロンドンオリンピックを体験したときのお話には、関心が高いようすが伺えた。

最後に、茂木さんから茂呂小児童に、「夢を大きく」「自分を大切に、友達も大切に知らない人にもフレンドリーに」「何にでもチャレンジ」の3つがメッセージとして送られたが、児童にとって心に残るものとなった。

以下、児童の感想

☆私は、将来じゅう医になって、世界で活やくしたいと思っています。なので、JICAという道もあるんだなあと思います。茂木さんは世界の人々のために、私は、世界の動物達のために、がんばるってとてもすごいです。

☆「サモア」という国を初めて知ったので、家に帰ってから、世界地図で「サモア」を探してみると、けっこう日本から遠かったのでびっくりしました。私がもし「青年海外協力隊」に入るとしたら、茂木さんと同じサモアに行って、子どもたちに「一輪車」を教えるたいです。

☆ぼくは、茂木さんの言った「夢は大きく」と「自分を大切に！ 友達も大切に！」という言葉が心に残りました。いろいろ教えていただき、ありがとうございました。



(様式3)

平成25年度「未来を拓く特別授業」実践報告書

学 校 名 伊勢崎 市立 広瀬小 学校

講師氏名等 (職種) 埼玉県平和資料館 吉井 大輔 (主事)

実施日	平成25年10月3日	対象学年等	3年(97人)
教科等	国語	授業(活動)名	ちいちゃんのかげおくり

○実践の概要

国語「ちいちゃんのかげおくり」の背景となっている、「戦争の時代」の様子について詳しく知るために、実物や資料を使って特別授業を行った。

「ちいちゃんのかげおくり」に出てくる、用語や焼夷弾・タスキなどの物などについておさえながら、写真や実物を見てお話をしていただいた。「出征」では、タスキを掛け、万歳で送られていくが、「行かないで」と言うことができない世の中であったこと。「寄せ書き日の丸」や「千人針」など、出征する人を思いながら作られた物があることなどを学んだ。

また、当時の服装や、防空ずきん・雑のうなどの物を見せながらちいちゃんの姿を想像することができた。

さらに、「配給制度」によって、食料が十分に行き届かない状態であったことなどを学んだ。

このような話の中で、「ちいちゃんおかげおくり」の背景となっている時代について理解するとともに、戦争の悲惨さについても学ぶことができた。

○実践の成果

児童は、戦争の時代と言っても、鉄砲や戦闘機・爆弾などの兵器のイメージを持っていたようだが、そこに暮らす人々の様子や気持ちはイメージできなかったようである。今回の授業を受けて、戦争の悲惨さを実感するとともに、そこに暮らす人々の気持ちを考えることができた。また、戦争時代の社会が、思想さえも自由でなかったことなどに驚いていた。さらに、現代がいかに幸せな時代であることも認識できたようである。

以上のように、今回の授業は、子どもたちにとって大変有意義な授業であり、機会があればぜひもっとたくさんの方に聞いていただきたい授業であると感じた。



(様式3)

平成25年度「未来を拓く特別授業」実践報告書

学 校 名 伊勢崎市立 広瀬小学校

講師氏名等 (職種) 共愛学園大学 古川 敦子 (講師)

実施日	平成25年11月6日	対象学年等	6年(129人)
教科等	総合	授業(活動)名	日本語教師の仕事とは

○実践の概要

総合「将来の夢を語ろう」の授業の一環として、様々な職業について詳しく知るために、資料や簡単な日本語を使い難しい日本語を説明する特別授業を行った。

古川先生の仕事である「日本語教師」について「何をする仕事なのか」「なぜこの職業を選んだのか」など資料を使いながら話をしていた。

古川先生が日本語教師を目指した理由は、「日本語が母語であるが、日本語の事をもっと説明できるようになりたい。」という思いからスタートしているとのことだった。


日本語教師の仕事とは単に外国の人に日本語を教えるのではなく、「日本語が母語でない人に、日本語でのコミュニケーションを教える」「日本語で日本語をジェスチャーや絵などを使って教える」事だと学んだ。

さらに、具体的生活場面で広報や学校からのお知らせの文を使い、難しい日本語を簡単な日本語に直す活動を行った。子ども達は班で協力しながら積極的に活動していた。

○実践の成果

児童は日本語教師とは、外国人に日本語の話し方を教える職業だと考えていたが、日本語のコミュニケーションを教える職業だと知ることができた。また、その職業についている人の生話を聞くことによってその職業を理解でき、様々な職業があることにも気づくことが出来た。また、外国籍児童の多い本校では、外国籍児童が保護者へ日本語を説明する時に気をつける事を学ぶことが出来た。

以上のように、今回の授業は、子どもたちにとって大変有意義な授業であり、機会があればぜひもっとたくさんの人に聞いていただきたい授業であった。



(様式3)

平成25年度「未来を拓く特別授業」実践報告書

学 校 名 伊勢崎市立広瀬小学校

講師氏名等 (職種) 群馬クレインサンダース 友利健哉 高田紘久 (選手)

実施日	平成26年2月20日	対象学年等	6年(129人)
教科等	総合的な学習の時間	授業(活動)名	将来の夢について語ろう
<p>○実践の概要</p> <p>総合的な学習の時間「将来の夢について語ろう」の学習に伴い、プロスポーツ選手という職業について詳しく知るために、体験談と実技を交えた特別授業を行っていただいた。</p> <p>プロバスケットボール選手を間近に感じながら、児童が自由に質問して選手の2名が答えるという全員参加型の形でお話をしていただいた。児童からは、「いつからバスケットボールをやり始めたのか」「いつもどんなトレーニングをどのくらいしているのか」「プロの選手になるためには、何をすればよいのか」等の日頃から気になっている質問が出され、それらに対して選手の方々が実体験をもとにユーモアを交えながら答えてくださった。その答えの中には、「プロの世界でも挨拶は基本であり、とても大切なこと」「学校生活と同じように当たり前のことを当たり前にする大切さ」「仲間を思いやる大切さ」「目標に向かって頑張り通す大切さ」等、児童の身近なことに関連づけた内容が多く、児童も目を輝かせながら夢中になって話を聞いていた。最後に、シュートや児童3人対選手1人のゲーム等の実技を披露していただき、児童からは大きな歓声が上がっていた。</p> <p>このような話と実技の披露を通して、プロスポーツ選手という職業について理解するとともに、それを目指す上で大切なことについても学ぶことができた。</p>		 	
<p>○実践の成果</p> <p>6年生は、総合的な学習の時間「将来の夢について語ろう」で自分が将来なりたい職業について調べて作文を書き、最後にスピーチをするという学習を行った。そのため職業について高い関心と、ある程度の知識をもっている所での今回の授業だったこともあり、児童は興味津々という表情で話を聞いていた。憧れの存在であるプロスポーツ選手が話した内容は、学校生活と関連したものが多く、児童は日々の学校生活の中には将来の夢につながる大切なことがたくさんあることを改めて実感することができた。今後もぜひ、このような機会を設けて行きたい。</p>			

(様式3)

平成25年度「未来を拓く特別授業」実践報告書

学 校 名 伊勢崎市立広瀬小学校

講師氏名等（職種） 群馬県助産師会 真下由利子さんをはじめ、3名の助産師

実施日	平成26年2月28日	対象学年等	5年（125人）
教科等	道徳	授業（活動）名	命を育む講座

○実践の概要

道徳の「生命がかけがえのないものであることを知り、自他の生命を尊重する」に関わって、群馬県助産師会の方に、映像や体験を取り入れた特別授業を行っていただいた。

受精から始まる命、立体エプロンシアターと児童によるだっこ体験、胎児と児童の心音の聴き比べ、出産を控えた



妊婦さんにインタビューなど、自らの命のルーツを辿った。講座は、それぞれ体験的・経験的な要素を含んだ体験学習であり、児童は驚きの声をあげたり、身を乗り出して話を聞いたりしていた。特に、縫い針の穴程度の大きさの受精卵が、約10ヶ月で2000倍の大きさになると知った場面や胎児の心音と児童の心音の聴き比べをした場面は、生命の持つ力に大きな衝撃を受けていた。

また、赤ちゃんが生まれた様子の映像を見ることで、出産に際しての母親や周りの人の期待、頑張り。そして生まれてきた自分自身の頑張り強く感じる事ができていた。

最後に助産師の方から「生きているだけで百点満点」という言葉を頂いた。この短い一言に込められた意味をそれぞれに感じ、授業を終えた。

○実践の成果

「生きている」ということは、とても素晴らしいということを知ることができた。中でも「生きているだけで百点満点」という言葉に込められた意味を考える中で、命を大切にすることは自分自身を大切にすることや周りの人を幸せにする力があることを学べた。講座を受講したあと、母親に自分の産まれた時の話を聞き、改めて自分の産まれた瞬間に想いを馳せる児童もいた。保護者も、子どもの誕生を思い出したり、「生きている」ことの素晴らしさを知ったりと有意義な講座であった。もっとたくさんの人に聞いていただきたい授業であると感じた。

(様式3)

平成25年度「未来を拓く特別授業」実践報告書

学 校 名 伊勢崎市立宮郷第二小学校

講師氏名等(職種) 吉井 大輔 (埼玉県平和資料館主事)

実施日	平成 25年10月10日	対象学年等	3年 (132人)
教科等	国語	授業(活動)名	戦争時の暮らしを知ろう

○実践の概要

10月10日(木)の3校時に、3年生全員を対象に、本校多目的教室で実施した。国語「ちいちゃんおかげおくり」は、太平洋戦争時下における人々の生活が舞台となっている読み物教材である。「ちいちゃんのおかげおくり」の学習を進めるにあたっては、当時の時代背景や戦争の頃の生活の様子を理解することがとても大切である。しかし、3年生児童にとっては、これらのことを実感をもって理解することは大変難しい。そこで、埼玉県平和資料館の吉井さんをゲストティーチャーに迎えて「ちいちゃん達が体験した戦争とはどのようなものであったか」をテーマにして実物資料や映像資料を用いながら太平洋戦争時下における人々の暮らし等についてお話をしていただいた。

○実践の成果

教科書に出てくる言葉や「もの」、さらには時代背景を具体的にわかりやすく説明していただき、児童は「ちいちゃん達が体験した戦争」について、共感的に理解することができた。国語「読み物教材」は登場人物の気持ちを考えることが、大切な課題となるが、当時の時代背景などを理解することにより、課題にせまるための手がかりを得ることができた。

以下、児童の感想をいくつか紹介したい。

☆せんそうの話を聞いて、ぼくがよそりたい上、こわかったです。せんそうの話をきいたらふしぎな事ばかりでした。今の暮らしとは、ぜんぜんちがいました。ちいちゃんのかげおくりと吉井さんの話をくらべてみると、吉井さんのほうが悲しい話でした。「ちいちゃんのかげおくり」のぶたいが本当にあるのは、はじめてしりました。せんそうから帰ってくるのは、1おく円当てるよりむずかしいという事にびっくりしました。

☆自分が同じ時代に生きていたら、空しゅうで、もう命がなくなっていたと思います。せんそうは、とてもこわくてとてもおそろしいことが分かりました。食ざいも、そんなに、なかったことが分かりました。未来が心配です。今、自分ができることは、「思いやりの心」を持つことです。



(様式3)

平成25年度「未来を拓く特別授業」実践報告書

学 校 名 伊勢崎市立宮郷第二小学校

講師氏名等(職種) 吉井 大輔 (埼玉県平和資料館主事)

実施日	平成 25年10月31日	対象学年等	6年 (172人)
教科等	社会	授業(活動)名	長く続いた戦争と人々の暮らし

○実践の概要

10月31日(木)の1～5校時に、6年生全員を対象に、各クラス1時間(5時間)実施した。

6年社会「長く続いた戦争と人々の暮らし」では、15年間続いた戦争について、日中戦争や第二次世界大戦、戦時下の生活や空襲を中心に学習を進めている。この内容の指導に当たっては、指導要領解説に「地域の高齢者に話を聞いたりする」等の活動が示されているが、戦争について語る事ができる高齢者を見つけることは現実には難しい。そこで、指導要領解説にあるように「地域の博物館や郷土資料館などの学芸員から話を聞く」ことを通して、太平洋戦争について具体的に理解することと合わせ、国語「平和のとりでを築く」で学んだ平和の大切さについていっそう理解を深めることを目的として、お話をしていただいた。

○実践の成果

現在6年生は「長く続いた戦争と人々の暮らし」の前単元を学習している。そこで、「長く続いた戦争と人々の暮らし」の事前学習として実施した。特に、戦時下の暮らしについては、なかなか理解が難しいが、時代背景を具体的にわかりやすく説明していただき、今後の学習課題にせまるための手がかりを得ることができた。さらには、悲惨な戦時下の様子についての理解を通して、平和の大切さについても共感的に実感することができた。

以下、児童の感想をいくつか紹介したい。

☆兵として出兵することを断ったら、まわりの人たちに、いろいろ言われるなんてとてもこわいと思いました。戦争中に最後に伊勢崎市に爆弾が落とされたと聞いてびっくりしました。、自分がたっている場所は昔は火の海や血の海になっていて少し怖くなります。わたしは将来、戦争に繋がることをさせないために、けんかをしていたら止めたいと思いました。

☆伊勢崎が最後の空襲だと聞いたときは、びっくりしました。戦争はこわいけど、戦争中の子どもの生活もこわかったです。「平和のとりでを築く」で学んだことを生かしたいです。



(様式 3)

平成 25 年度「未来を拓く特別授業」実践報告書

学 校 名 伊勢崎市立 赤堀南小 学校

講師氏名等(職種) 生形 雄一 (宮大工)

実施日	平成 26 年 2 月 13 日	対象学年等	5 年 (101 人)
教科等	総合的な学習の時間	授業(活動)名	宮大工さんから学ぼう ～「千年の釘にいどむ」～

○実践の概要

国語教材「千年の釘にいどむ」で、児童は鍛冶職人の仕事について学習し、日本の伝統技術を継承する職業に宮大工があることを知っている。本校では市内で宮大工を営む生形さんをお招きし、寺社の日本の伝統技術を継承する建築・修理の行程、伝統を継承する仕事の実際、さらに宮大工の仕事をする上で心がけてることなどを伺った。また、その仕事の一部を実演と共に児童に体験させていただいた。

(授業の流れ)

- 1, 宮大工の仕事について (DVD・スライド視聴)
 - ・お寺ができあがるまで・上棟式の様子
 - ・古いお寺の修理について
- 2, 宮大工さんの仕事を体験してみよう
 - ・実演 (のみで鉛筆を削る・チェーンソー)
 - ・体験 (墨壺・墨さし・差し金・
かながけ・のこぎり)
- 3, 破魔矢実演
- 4, 宮大工としての心がけ・質疑応答

○実践の成果

実際に使っている道具や修復の社寺の建築部材の実物を並べ、それらを使って目の前で実演することで、児童は本物に触れることができ、驚きと感動を味わえた。また、昔ながらの工法で大きな寺社を作るその技をわかりやすい映像で紹介してくださり、宮大工の仕事の様子がイメージできた。三百年前に建てられた釣り鐘堂を修理する際、「三百年後の職人に見せても恥じない仕事をしたい」と語った生形さんの言葉は、国語の題材に紹介された内容と通じるものがあり、生き方を学ぶキャリア教育の視点からもよい学習になった。

(児童の感想)

○ 私は宮大工の仕事の中で、古い建物を建てかえることがすごいと思いました。機械ではなく人の手で解体することで、それを作った人のうでの良さがわかるなんて、すごくすてきなあとと思いました。かっこよかったです。

○ 先生と生形さんが、のこぎりの丸太早切り対決をしたのが楽しかったです。途中で電話にも出て、服を二回もぬいだのに勝てたのは、何度思い返しても「すごかったな。」と思います。家でお母さんに話をしたら「すごいね。よかったね。」と言われました。



のこぎり (体験)



のこぎり (実演)



破魔矢 (実演)

(様式 3)

平成 25 年度「未来を拓く特別授業」実践報告書

学 校 名 伊勢崎 市立 赤堀東小 学校

講師氏名等(職種) 酒井 和彦 (ビオトープ管理士)

実施日	平成 25 年 6 月 7 日	対象学年等	3 年 (74 人)
教科等	総合的な学習の時間	授業(活動)名	いろいろな生き物が集まるビオトープにしよう

○実践の概要

本校校庭の一面には、大正用水から引水した池を中心とする 30 m 四方ほどのビオトープがある。毎年その年度の 3 年生は、このビオトープをテーマとして総合的な学習に取り組んでおり、酒井氏に年間数回指導をお願いしている。今回はビオトープ学習の初回で、「生きものとお話しよう」というテーマで講話をいただいた。また、併せてご自身がこうした活動をするようになったきっかけや活動内容についてもお話いただいた。指導は 3 学級に対し、学級ごとに 1 単位時間(45 分)とし、1～6 校時で実施した。

「生きものとお話しよう」

- ・カエルやトンボの「体のつくり」「生活の様子」「すみかの様子」を知ることで、カエルやトンボが求めている環境条件がわかる。
- ・環境条件がわかると、本校のビオトープに不足している環境条件がわかる。
- ・環境条件を整えてやるといろいろな生き物が集まる。
- ・例えば、トンボには日なたの好きなトンボもいれば、日影の好きなトンボもいる。ビオトープに日なたと日影の場所を造ってやると両方のトンボがやってくる。

「活動のきっかけ」

- ・小さい頃から虫が好きでいろいろな虫を捕まえたり飼ったりした。特にトンボが好きでヤゴを育てたりもした。
- ・大人になり、たくさんの虫がいた環境が失われていることに気づき、心が痛んだ。
- ・失われた環境を少しでも取り戻すためには、子どもたちに虫のおもしろさや自然のすばらしさを知ってもらうことが第一歩になると考えた。
- ・「ビオトープ管理士」の資格を取得し学校などで話をさせてもらっている。



講話の様子

○実践の成果

児童は、平素からビオトープで遊ぶことが多く、年間を通して学習していくことに大いに興味をもつことができた。また、酒井さんの子ども時代の話にも目を輝かせていた。

(様式 3)

平成 2 5 年度「未来を拓く特別授業」実践報告書

学 校 名 伊勢崎 市立 赤堀東小 学校

講師氏名等(職種) 酒井 和彦 (ビオトープ管理士)

実施日	平成 2 5 年 9 月 2 7 日	対象学年等	3 年 (7 4 人)
教科等	総合的な学習の時間	授業(活動)名	いろいろな生き物が集まるビオトープにしよう

○実践の概要

酒井氏に指導を受けながら、ビオトープでミゾソバの整理とアカネ類の産卵場の整備を行った。指導は学級ごとに2単位時間(90分)とし、1～6校時で実施した。

[ミゾソバの整理]

作業前に、抜くべき植物の特徴や、抜く理由を教えてもらった上で、ミゾソバの整理を行うと共に、セイタカアワダチソウやイネ科の外来植物の除去を行った。



ミゾソバ整理の様子



アカネ類産卵場の整備の様子

[アカネ類産卵場の整備]

アキアカネ、ナツアカネが産卵するよう、繁茂していたガマを整理し、湿地状の場所に整備し直した。

○実践の成果

ビオトープは自然の成り行き任せではなく、繁茂しすぎた植物は整理するなど人が適切な管理を行うことを3年生にもわかるように教えていただいた。また、産卵場の整備では、特定の生き物が好む環境を意図的に造れることを体験と通して知るとともに、ビオトープ生まれの赤トンボが現れるかもしれないことに児童は大きな関心と期待感を持つことができた。

(様式 3)

平成 25 年度「未来を拓く特別授業」実践報告書

学 校 名 伊勢崎 市立 赤堀東小 学校

講師氏名等(職種) 酒井 和彦 (ビオトープ管理士)

実施日	平成 25 年 11 月 14 日	対象学年等	3 年 (74 人)
教科等	総合的な学習の時間	授業(活動)名	いろいろな生き物が集まるビオトープにしよう

○実践の概要

ビオトープの池と学校のプールでそれぞれヤゴを採集し、教室で体のつくりを観察したりスケッチしたりした。指導は学級ごとに 2 単位時間(90分)とし、1～6 校時で実施した。

[ヤゴ採集]

児童全員が交代で池に入り、たも網でヤゴを採集した。同様にプールでもヤゴや水生昆虫を採集した。



池での採集の様子



プールでの採集の様子

[ヤゴ観察]

採集したヤゴを観察ケースに入れ、体のつくりを虫眼鏡や実体顕微鏡で観察したりスケッチしたりした。また、酒井氏から池では見られないウスバキトンボのヤゴがプールにはいることやそのトンボの特異な生態を教えていただいた。

○実践の成果

トンボの種によって、プールや池などそれぞれ好みの場所が違ったり、頭部や腹部の形状に微妙な違いがあったりと、単に「ヤゴ」とひとくくりにはできない生態の相異や種の多様性やを実体験や実物から学ぶことができた。

児童は実際に採集したり観察したりする学習にたいへん意欲的に取り組んだ。採集の場面でも観察の場面でも、酒井氏にヤゴやトンボに関する質問を次々と投げかけていた。酒井氏はそうした質問一つ一つに大変ていねいに答えてくださり、子どもたちは専門家ならではの説明やアドバイスを得て大変満足そうであった。

観察スケッチはいずれもていねいに仕上げられており、同時に書かせた作文にも楽しく学習できたことや次回が楽しみなど、肯定的な感想ばかりであった。また、学習内容を十分に理解した記述も多かった。さらに、自分も酒井さんのようになりたい、昆虫の研究者になりたいなど、将来への夢を書く児童も少なくなかった。これらはいずれも専門家による指導の成果と考える。

(様式 3)

平成 2 5 年度「未来を拓く特別授業」実践報告書

学 校 名 渋川 市立 渋川西小 学校

講師氏名等(職種) 土田 猛 (1 級建築士)

実施日	平成 2 6 年 1 月 2 1 日	対象学年等	6 年 (3 4 人)
教科等	総合的な学習の時間	授業(活動)名	社会人講話

○実践の概要

1. 自己紹介と建築の紹介

- ・ 建築家には、1 級建築士、2 級建築士、木造建築士があり、自分は 1 級建築士。
建物の構造は R S 造（鉄筋コンクリート造り）や S 造（鉄骨構造）建築についての説明
東京ドームには柱はなく、空気圧で屋根を支えている。

2. 日本の世界に誇る木造建築についての説明

- ・ 最古の木造建築が法隆寺であり、南大門の改修で日本最古の建築用墨つぼが発見された

3. 大工道具についての説明

- ・ 金槌は、トンカチ、げんのう、ハンマー等呼び名がいくつもある。
・ かつて使用した墨つぼを実際に持ってきて児童に見せる。

4. 職業人としての建築士の紹介

- ・ 最近では女性も大工として働こうとする人もおり、
土田工務店でも社員として育てた。
高いところへ登っての仕事なので、高さに慣れる必要がある。
建築士としては、女性もどんどん増えている。

5. 土田工務店の大工さん製作による組木の紹介

- ・ 実際に展示用に柱の組み合わせ部分の物を作って児童に見せた。また、その作り方を紹介した本も回覧した。



6. 講師の願い

働くことの意義を考え、将来どんな職業に就きたいか夢を持って勉強に励んでほしい。

○実践の成果

<児童の感想>

- ・ 社会人講話を聞いて、自分の持っている夢に向かって一生懸命がんばることの大切さを知りました。
- ・ 女性でも大工さんになれるとはびっくりしました。男性しかやっていないと思ったら、女性もいたなんて驚きました。
- ・ 土田さんの話を聞いて、将来のことを考えるのは大事なことなのだろうなと思いました。今回は建築家の話をしてくださいましたが、建築家に限らず他の仕事も責任を持ってしっかりと取り組むことが大切だと思いました。

<まとめ>

児童は建築家にはいろいろな職種があることや、女性の大工さんがいること、見せて頂いた木組みの複雑さに感心したこと等工務店の仕事に関心を持つとともに、勉強して努力すれば、なりたい職業に就けるということを理解し、将来への夢を育んだようである。

(様式3)

平成25年度「未来を拓く特別授業」実践報告書

学 校 名 玉村町立 芝根小学校

講師氏名等(職種) 斉 藤 節 子 (看 護 師)

実施日	平成 26年 1月 17日	対象学年等	6 年 (67人)
教科等	総合的な学習の時間	授業(活動)名	夢をもって(青年海外協力隊に参加して)

○実践の概要

講師の斉藤節子さんは、現在群大病院に看護師として勤務されている。看護師として、青年海外協力隊に応募し、中南米のグアテマラで2年間地域医療の改善の活動に取り組まれた。

子どもの頃は建築士になりたいという夢を持っていた斉藤さんだが、看護師不足のニュースをみて看護師になったことや看護師をしながらも国際貢献をしたいという夢を実現させるために青年海外協力隊に応募したこと、訓練を受けて赴任したグアテマラでの活動の様子などを話していただいた。

グアテマラの文化、遺跡、町の様子をパワーポイントと実際の手織物の洋服、布、お金、木の実を加工した器などを見せてもらいながら伺った。グアテマラの地域医療の様子、そこでの活動と成果を地域の実情と地域の人々の思いとともに語ってくださった。

○実践の成果

グアテマラの風土、食べ物、マヤの遺跡やマヤ文明の影響を残す織物など具体的な写真と実物を見せてもらいながら、遠いグアテマラについて関心を持って聞くことができた。自分の夢を、実際に看護師の仕事しながら実現させた斉藤さんの話に学ぶことが多かった。グアテマラの医療の様子、そこで苦労しながらも工夫して楽しく前向きに活動してきたことが良く分かった。「初めての体験で日本と違うところがたくさんあるが、違いを認めることで仲良くなれる。」「生きていくために一生懸命の姿に感動した」「違う国に行くことで日本のすばらしさを再認識した」「夢は大きく世界に羽ばたくように」など児童にとって示唆に富む話だった。



以下、児童の感想を紹介する。

○「夢」を持ち、かなえられるような人になりたいです。二つの「夢」をかなえられた斉藤さんはすごいと思いました。誰一人知らない所に行くのはすごく勇気があることだし、そこで人々の役に立てるなんてとてもすごいと思います。文化が違って「人々が親切で優しいところ」は日本と同じだと思いました。



○私も将来海外に行って仕事やボランティアをしたいと考えていて、斉藤さんが「120%海外に行ってみた方が良い」といっていたので、少し不安だったのが軽くなりました。くじけずに前向きにあいさつをしたりすることが、グアテマラの人たちの心を開いていったのだと思いました。

○斉藤さんの話を聞いてボランティア活動っていいなと思いました。私も大人になったら積極的にボランティア活動に参加したいと思います。

(様式3)

平成25年度「未来を拓く特別授業」実践報告書

学 校 名 佐波郡玉村町立南小学校

講師氏名等(職種) 千葉智絵 他4名 (箏師範)

実施日	平成25年10月24日	対象学年等	5年(83人)
教科等	音楽	授業(活動)名	邦楽教室

○実践の概要

第1校時

- ・千葉講師・青山講師より、邦楽に関する講話
- ・講師の先生方(箏4名、尺八1名)の演奏鑑賞
「春の海」「さくらさくら」
「六段の調べ(三段まで)」「北海民謡調」

第2校時

- ・5年3組 箏・尺八の演奏体験学習

第3校時

- ・5年2組 箏・尺八の演奏体験学習

第4校時

- ・5年1組 箏・尺八の演奏体験学習



○実践の成果

事前の授業で「春の海」の学習をし、CDを聴き箏や尺八に関する多少の知識を持った子どもたちであったが、生の演奏を目の前で聴く姿は真剣であった。思った以上に迫力のある演奏に引き込まれ、日本の伝統音楽のよさを心から味わっている様子を感じられた。演奏体験でも一人一人が積極的に取り組み、和楽器を初めて演奏できた嬉しさと楽しさで満足した姿があちこちに見られた。



○児童の感想○

・1時間目の演奏のことや尺八のとても美しい音色がまだ心の中に響いています。実際に弾くまでは自信がありませんでしたが、目の前でことを見てみるとすぐにさわりたくなって、先生のわかりやすい説明を聞いているうちに自信が出てきました。「さくらさくら」も1時間ではできないと思いましたが、実際に弾いてみるとうまくできました。最後まで演奏できてうれしかったです。普段できない体験をして音楽により興味を持ちました。(男子)

・私は尺八を体験しました。意外と音が出なくて、やっと出ても次にはもう出なくなってしまうこともありました。休けい中、先生が「春の海」を目の前で吹いてくれました。うれしくて集中して聞いていました。最後に、「今日はちょっぴり尺八を吹くのが上手になったかな。」と思いました。今日はとても貴重な体験ができました。(女子)

(様式 3)

平成 2 5 年度「未来を拓く特別授業」実践報告書

学 校 名 高崎市立西小学校

講師氏名等(職種) 花田 勝彦 (上武大学駅伝部監督)

実施日	平成 2 5 年 9 月 1 9 日	対象学年等	6 年 (7 8 人)
教科等	総合的な学習の時間	授業(活動)名	将来の夢を考えよう

○実践の概要

9月19日(木)の3校時に、6年生全員を対象に、本校多目的室で実施した。

本学年の総合的な学習の時間「将来の夢を考えよう」では、まず、家族などの身近な人にインタビューをし、次に地域の先輩に話を聞き、最後に、自分のなりたい職業を調べるといふ学習を計画した。今回は、「地域の先輩の話を聞こう」の学習の一環として、花田監督に来ていただいた。

まず、現役の時に5000mで日本一になった時のビデオをみながら、競技についての話があり、その後、瀬古監督から学んだこと、競技や練習から学んだこと、友情や運、夢についてなど経験をふまえた話をしていただいた。

○実践の成果

花田監督の話を聞き、子どもたち一人一人が、自分たちの日常の生活を振り返るとともに、身近な目標や将来のことを考えることができたのではないかと思う。以下児童の感想をいくつか紹介したい。

・「花田監督の話は日常生活に役立つことばかりでした。それは、あいさつ、運、友情、すべてが大切なことということがわかりました。」

・「花田監督も人一倍努力したからこそ日本一になったり、みんなから「すごい」と思われたりするんだと思いました。「チャレンジ」することがまず「そこへの道の第一歩なんだ」とおっしゃっていたので「～だからやる」とか「～だからやらない」ではなく思ったらやってみるということが大切だと思いました。」

・「花田監督はすごい努力を積み重ねてきた結果が繋がったんだろうと思った。あきらめずに前向きにやっていくことが大事だなと思った。ぼくは目標に手がとどく時に気をぬいていたから結果がいつもでなかったのかなと思った。小さいことの積み重ねが大切だと思った。」

・「努力は無限なことがわかった。ぼくも努力しているのに「努力しろ」と言われるとムカッとするのですが、それをしっかり受け止めて、努力し続ける事が大切なんだなと思った。」

・「私も運動会や習い事で人に認めてもらえるような努力をしようと思った。」

・「ぼくも大きく夢をもって、その夢を実現できるようにたくさん努力して、夢を実現してもそのまま努力していきたいと思った。夢を見つけるためにたくさんチャレンジしていきたいと思った。」

・「私は本当にやりたいと思う夢が見つからないから、無限にある可能性から大きな夢を見つきたい。」



(様式3)

平成25年度「未来を拓く特別授業」実践報告書

学 校 名 高崎市立西小学校

講師氏名等(職種) 横田 衛(群馬トヨタ株式会社社長)

実施日	平成25年10月 4日	対象学年等	6年 (78人)
教科等	総合的な学習の時間	授業(活動)名	将来の夢を考えよう

○実践の概要

10月4日(金)の5校時に、6年生全員を対象に、本校多目的室で実施した。

本学年の総合的な学習の時間「将来の夢を考えよう」では、まず、家族などの身近な人にインタビューをし、次に地域の先輩に話を聞き、最後に、自分のなりたい職業を調べるという学習を計画した。今回は、「地域の先輩の話を聞こう」の学習の一環として、本校の卒業生でもある横田社長に来ていただいた。

まず、自動車製造業と販売業の違い、会社についてスライドを見ながら説明していただいた。その後、児童とのやり取りや質問タイムの中で仕事や会社に対する考え方や小学校時代のこと、将来の自動車についてなどを話していただいた。

○実践の成果

横田社長の話を聞き、子どもたち一人一人が、社会の仕組みや仕事について自分たちの日常生活を振り返りながら具体的に考えるとともに、将来のことについて考えることができたのではないと思う。以下児童の感想をいくつか紹介したい。

- ・横田社長は西小を卒業していて、とてもポジティブな人で明るかった。
- ・「群馬トヨタ」とは、車を生産するのではなく、車を売るところだということがわかった。
- ・とてもためになる話で小さな気遣いやコツなど色々話してくれました。また、乗ってきた車には賞を取るために他の車にはない工夫をしていた。
- ・お客様にサービスや心遣いをしているということも驚きました。
- ・お客様に「ありがとう」を言ってもらえるようにしたり、あいさつが基本というのを聞いてとても勉強になりました。
- ・「当たり前のことを当たり前にする」ということはお店を営業するだけでなく、色々なところで使えると思いました。
- ・社長さんが感謝してもらえるようにするというのを聞いて、私も感謝される仕事をしたいと思いました。
- ・社長という仕事はお金の取引をしたり、会社を代表してやらなきゃいけないからすごい責任があって大変な仕事なんだなと思いました。
- ・幼いころの思い出が似ていた。読んだ本も一緒だった。
- ・ぼくは、将来車の設計者になりたいと思っていました。

横田社長は色々な苦勞をせおって社長になったと思いますが、横田社長のようになりたいです。いつか車にたずさわりたいです。

- ・ぼくも横田さんみたいな社会人になりたい。ぼくも社長さんみたいにがんばります。



(様式 3)

平成 2 5 年度「未来を拓く特別授業」実践報告書

学 校 名 高崎市立 西小学校

講師氏名等(職種) 倉俣 徹 (ジャイアンツアカデミー ヘッド・コーチ)

実施日	平成 2 5 年 1 1 月 2 5 日	対象学年等	6 年 (7 8 人)
教科等	総合的な学習の時間	授業(活動)名	将来の夢を考えよう

○実践の概要

1 1 月 2 5 日 (月) の 3 ・ 4 校時に、6 年生全員を対象に、本校多目的室で実施した。

本学年の総合的な学習の時間「将来の夢を考えよう」では、まず、家族などの身近な人にインタビューをし、次に地域の先輩に話を聞き、最後に、自分のなりたい職業を調べるといふ学習を計画した。今回は、「地域の先輩の話を聞こう」の学習のまとめとして、倉俣ヘッド・コーチに来ていただいた。

まず、仕事内容のわかるビデオをみて、「プロスポーツ選手」につくこと、そこで活躍することの難しさについてご自身の経験を踏まえてお話しいただいた。その後、発達段階に応じた子ども特徴から、今やるべきこと、これからやらなければならないこと、どのように目標を決め、どのように努力するかのお話をいただいた。

2 時間目は、正しい「投げ方」について実技指導もしていただいた。

○実践の成果

倉俣ヘッド・コーチの話を聞き、子どもたち一人一人が、自分たちの夢を実現するためにこれからどのように努力しなければならないのかを考えるとともに、実技指導を通して正しい形でプレーすることの大切さを実感できたのではないかと思います。

以下児童の感想をいくつか紹介したい。

- ・ヘッド・コーチになるまでの話では、ビデオなどをみているいろいろ大切なことを教わりました。
- ・プロスポーツ選手はとても難しいかべを乗り越えている人たちなんだと思いました。
- ・夢をかなえるためにはどのような努力が必要なのかが分かりました。
- ・習い事などどんなことでも毎日たくさん練習しないと絶対プロになれないと分かった。私もプロにはならないけれど習い事など毎日しっかり取り組もうと思いました。
- ・私もピアノや勉強などを毎日絶対頑張っていきたいと思いました。そして夢をかなえたいと思いました。
- ・将来何になるかまだ分からないけれど、今のうちからいろいろなことにチャレンジしておきたいと思いました。
- ・ボールの正確な投げ方を教えていただき、教えてもらう前までは、体の形を気にしないで力任せでボールを投げていた。教えてもらって正確に投げられるようになりました。



平成25年度「未来を拓く特別授業」実施報告書

学 校 名 高崎市立新町第二小学校

講師氏名等(職種) 富田 陽子 (元小学校長)

実施日	平成26年2月20日	対象学年等	第6学年(42人)
教科等	総合的な学習の時間	授業(活動)名	新町の歴史を学ぼう

○実践の概要

2月20日(木)の第1校時に、第6学年児童全員を対象に「新町の歴史を学ぼう」というテーマで実施した。講師は、日頃、読み聞かせボランティアとして来校していただいている、新町の歴史に詳しい富田陽子様¹に依頼した。

内容は、クイズ形式で五街道や織田信長と新町の関係について考え、新町が中山道の宿場町として栄えていたことや、神流川古戦場跡碑、首塚八幡宮などの文化財について教えていただいた。また、明治時代になり、官営新町屑糸紡績所²ができて、明治天皇が行幸されたことや、鉄道が通ったことなども教えていただいた。

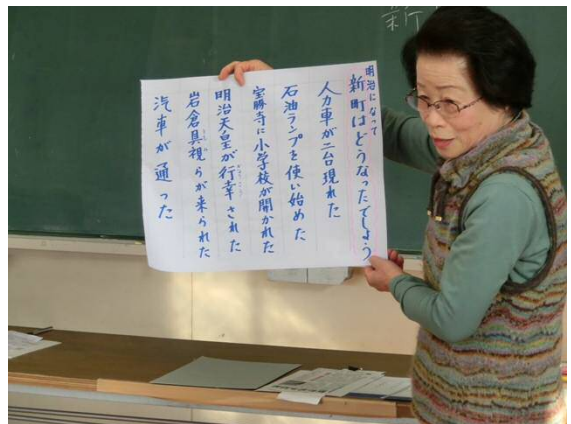
○実践の結果

戦国武将ブームということもあり、神流川合戦についての話には、かなり興味をもった児童が多く、授業後に個人的に質問に行く児童の姿が見られた。また、富岡製糸場に匹敵する価値のある官営新町屑糸紡績所³があり、天皇も行幸された土地であることから、自分たちの住んでいる地域を見直し、愛着をもったり誇りに思ったりするよい機会になった。

以下、児童の感想を紹介する。

☆ 富田さんの話を聞いて、学校の近くにある首塚などが身近に感じられるようになりました。もし、私が新町を離れるときが来るとしたら、「新町は、織田信長や皇女和宮ともゆかりのあるすごい町なんだよ」と自慢したくなりました。

☆ 新町に官営工場があったと聞いて、びっくりしました。しかも、その工場を見るのに天皇が来たことに、さらにびっくりしました。また、こんなちっちゃい町の駅から乗り継ぎなしで高崎駅や新宿駅に行くことができるわけを知り、とても勉強になりました。ぼくは、富田さんの話を聞いて、ちっちゃい町だけど、いろいろな歴史があり、とても進んだ文化があった町として、これから新町に住んでいることを誇りに思っています。



平成25年度「未来を拓く特別授業」実践報告

学校名 藤岡市立小野小学校
 講師氏名(職種) 外山 徳男 (ランドセル職人)
 篠原 健輔 (ホンダカーズ営業)
 西山 篤史 (剣道具職人)
 高原 美咲 (介護福祉士)
 宮川 将和 (ビルメンテナンス)
 川村健太郎 (歯科技工士)

実施日	平成26年 1月17日	対象学年等	第6学年(101人)
教科等	総合的な学習	授業(活動)名	未来を拓く特別授業

○実践の概要

昨年は、保護者の方にも声をかけて講師になっていただいたが、今年では全ての児童にとって初対面となる6名、6職種の方々に講師になっていただき特別授業を行った。6名の講師の方の中から3人の方の話聞けるように児童を事前にグループ分けし、講師の方に20分の授業を3回行っていただいた。児童は、多くの方の話聞く中で身の回りの様々な仕事に興味を広げたり、働くことへの関心を深めたりしていた。また、お客様のことを思って仕事をする大切さや、「ありがとう」と言われた時に感じるやりがいなど、仕事は違っても6人の方が共通して話されていると感じ取っていた。

—— 当日の流れ ——

- 13:15 講師集合(校長室)
 - 13:25 児童とともに各教室へ移動
 - 13:30~13:50 特別授業1
 - 14:00~14:20 特別授業2
 - 14:30~14:50 特別授業3
 - 14:55 講師、児童集合
 - 15:00 終了
- クラスに戻って感想の発表。

○実践の成果



外山 徳男 様
【トヤマかばん店】

「頼まれた仕事は断らないで何とかする。大変だが達成感がある。人が喜ぶ顔を見るのが嬉しい。人はお金とか物で満足するのではなく心で満足する仕事をする。完成だと思ったら伸びない。まだいい物ができると思っていても考えている」等仕事やお客様に対する職人としての深い思いを児童に伝えてくれた。

車を買っていただいたお客様に「ここでこの車を買ってよかった。」と思ってもらえるように仕事をしていること、いつでも笑顔や元気な声でお客様に接していることを話された。一生懸命に仕事すると「ありがとう」と言ってもらえる。大人になったら「ありがとう」と言ってもらえる仕事ができる人になってほしいと語られた。



篠原 健輔 様
【ホンダカーズ高崎藤岡営業所】



西山 篤史 様
【西山剣道具店】

剣道具は昔の人の知恵の集まりであることや、昔からの仕事の中に新しい物を取り入れることと努力していることを話された。また、仕事は始めた頃は何もできないが、信念を持って続けていってほしいこと、海外にも目を向け日本文化を語れる人になってほしいことを児童に伝えてくれた。

「人の役に立てる仕事をしたいと思って今の仕事に就いた。不安はあったけれど、なったからにはしっかりと仕事に取り組もうと思った。」と、職業を選んだ理由を語られた。障害を持った方のできることを職員が取ってしまわないようにどこで支援が必要か見極めることが大切という言葉を見学児童は真剣に聞いていた。



高原 美咲 様
【社会福祉法人大平台会第二都学園】



宮川 将和 様
【ビルテクノス関越支店】

年数が上がっていくに従ってできる仕事が増えてくる楽しさや、その中での苦労などをユーモアを含めながら児童へ伝えてくれた。メンテナンスという目には見えない仕事を言葉で伝え「ありがとう」と言ってもらえたり、お互いの間に信用が生まれたりしていくことに仕事の楽しさを感じると語られていた。

歯の模型や本を示しながら仕事の内容について分かりやすく話してくださった。患者さんが使いやすいように細かい作業を続けていく大変さとともに、「川村さんの作ってくれた歯のおかげでたくさん笑えるようになり、毎日が楽しい。」という患者さんの言葉も紹介していただき、児童は話を通して仕事のやりがいを感じ取っていた。



川村 健太郎 様
【アルファードンタルクリエイティブ】

(様式 3)

平成 25 年度「未来を拓く特別授業」実践報告書

学 校 名 藤 岡 市 立 鬼 石 小 学 校

講師氏名等(職種) 高野 真哉 (自動車販売)
岩上 一真 (治験施設支援機関)

実施日	平成 26 年 2 月 10 日	対象学年等	5・6 年 (47 人)
教科等	総合的な学習の時間	授業(活動)名	地域の歴史・文化を学ぼう

○ 実践の概要 (2 時間続き)

(1) 実践のねらい

鬼石祭りの起源や屋台の説明を通して、先人の祭りに対する熱い思いや努力を知り、これからは自分たちが伝統を受け継いでいこうという気持ちをつくる。

(2) 実践の概略

まず、5 分間の鬼石夏祭りの映像で、自分たちの町内の屋台や友達が映っているのを見て、児童の気持ちが鬼石祭りに一気に引き込まれた。

その後、画像を映し出しながら鬼石祭りの起源や各町内の屋台の特色などの紹介があり、児童は映像に注目して熱心に耳を傾けた。

前半の最後に、全国のお囃子の紹介と鬼石祭り囃子との比較などの話があった。

後半は、鬼石夏祭りの屋台運行についての説明後、今年度作成した夏祭り DVD の映像を視聴した。

【内容】 出発式、団体行動、新田坂駆け上がり
寄合い、屋台格納 等
最後に、質疑応答とお礼の言葉で終了。



○ 実践の成果

生まれたときから、鬼石祭りに関わってきた児童が多いが、祭りの華やかな部分が中心で、祭りの起源や自分たちの町内の屋台がいつ、どのようにしてできたのかなど初めて聞く話ばかりで、児童は驚きを持って聞いていた。古い歴史と伝統を改めて知らされることにより、自分たちがその伝統を引き継いでいかなければならないという思いを強く持つことができた。



各町内の法被

この授業の後、6 年生は学習発表会で保護者や地域の方々に鬼石祭り囃子の太鼓演奏を披露したり、5 年生に演奏の指導をしたりする予定である。お囃子の太鼓演奏に自信と誇りを持って、演奏や引き継ぎをしてくれるものと確信している。

児童の感想

- 鬼石夏祭りは、昔の人たちやたくさんの人たちのおかげで、今もできているのだと思いました。鬼石夏祭りに、もっともっと興味がわきました。
- 古くから行ってきた伝統なので、続けていきたいと強く思いました。これからは、自分たちが続けていこうと思います。
- これからも、昔の人のがんばりなどがむだにならないように続けていきたいです。

(様式3)

平成25年度「未来を拓く特別授業」実践報告書

学 校 名 上野村立上野小学校

講師氏名等(職種) 小阿瀬 恵子他6名 (麦わら帽子の会)

実施日	平成25年6月19日	対象学年等	1～6年(52人)
教科等	道徳	授業(活動)名	朗読劇

○実践の概要

6月19日(水)の5校時に、全校児童や地域の方を対象に、朗読劇を実施しました。子どもたちは、朗読劇グループ「麦わら帽子の会」の息の合ったメンバー7名による朗読劇の魅力に初めて触れることができました。戦争を題材として扱った絵本『かわいそうなぞう』と『伸ちゃんのさんりんしゃ』を、スライドの映像と音楽の効果を生かしながら、感情のこもった朗読を聞かせていただきました。

日頃から「読み聞かせ」に慣れ親しんでいる子どもたちでしたが、今回初めて朗読劇を見て、テレビや映画とは違う、声の調子や間の取り方、語りかけ訴えかけてくる生の迫力に、物語の世界にすっかり引き込まれ、どの子も真剣なまなざしで聞き入っていました。

○実践の成果

朗読劇の鑑賞を通して、戦争の悲惨さや平和であることの有り難さ、家族の優しさや大切さを改めて実感したり考えたりできる貴重な機会になったようです。戦争があった苦しい時代を乗り越えて、今があることを子どもたち一人一人が自分で考え少しでも理解することで、将来に向けての夢や希望を育むきっかけの1つにしていきたいです。

以下、児童の感想を紹介します。

☆今の平和な時代には考えられないような戦争という出来事と、その中で生きる人々の思いが、今回聞かせていただいた2つの物語にこもっていて、となりの人に、何事と思われるくらい私は泣いてしまいました。

☆とても気持ちがこもっていてすごく感動しました。楽しい本ばかりでなく、戦争などの本を読んで、もっとこのような出来事を知っておきたいと思いました。また、なんで戦争などというこんな悲しいことが起こるのか疑問に思いました。

☆今日改めて戦争があった時代のことを考えました。私たちが考える以上に戦争は大変だったということをお忘れず、これからも生活していきたいです。




(様式3)

平成25年度「未来を拓く特別授業」実践報告書

学 校 名 神流町立 万場小学校

講師氏名 中村知仁・新井宏・久保田克博

実施日	平成26年1月27日	対象学年等	第6学年(人)
教科等	総合的な学習の時間	授業(活動)名	夢に向かって
<p>○実践の概要</p> <p>①講師の自己紹介</p> <p>②神流町の企業に勤務している3名(30代)を講師に招き、今の職に就いた理由・職場での仕事内容・仕事をしていくうえで大切なこと、などを中心に話をしていた。</p> <p>③質疑・応答</p> <p>○実践の成果</p> <ul style="list-style-type: none">・町内の職場で活躍している人の生の声を聞くことができ、児童は仕事に対する認識が深まったのではないかと感じた。 <p>《児童の感想》</p> <ul style="list-style-type: none">・3人の講師の先生から、仕事との出会いや仕事の大変さ、これから大切にしていってほしいことなどを聞きました。私は、自分のつきたい仕事には簡単につけると思っていたのですが、話を聞いてそうではないということがわかりました。・仕事をするうえで大切なことは、忍耐力と集中力それと休まず仕事に励むことだということを知り、これから、こんな力をつけていきたいと思いました。・講師の3人の先生の、『出会いを大切に』という言葉が心に残りました。人と人とが会うことで、色々なきっかけが生まれ、それが将来の仕事につながっていくということを知りました。このことを忘れないで生きていきたいです。・仕事はつらいと思っていましたが、人から感謝されたり社会のためになることは楽しいんだということを知り、将来どんな職業につくか楽しみになりました。			
			

(様式 3)

平成 25 年度「未来を拓く特別授業」実践報告書

学 校 名 東吾妻町立坂上小学校

講師氏名等(職種) 寺 澤 敬 子

(群馬県読み聞かせグループ連絡協議会会長)

実施日	平成 26 年 1 月 22 日	対象学年等	5 年 (11 人)
教科等	国語	授業(活動)名	絵本文学教室

【実践の概要】

絵本の読み聞かせ活動で群馬県を代表する寺澤敬子先生に、「絵本の素晴らしさと私の歩んできた道」と題して、絵本の読み聞かせと絵本を通した人と人とのつながりについて 80 分間、語っていただきました。

授業の流れは次のようになります。

①絵本「かいじゅうたちのいるところ」

作者が考えたストーリーの構成、画家が考えた絵の構成、その二つが相乗効果を発揮して読者に語りかけるのが絵本のおもしろさです。また、絵本は表紙から裏表紙まで読者がそれぞれ楽しめるように構成されているので、よく見ながら十分に楽しんで欲しいです。特に本の物語の中に入って遊びましょう。

②絵本「だるまちゃん、てんぐちゃん」

だるまちゃんの「〇〇欲しい、〇〇欲しい」を実現させるコミカルな流れと、余白を十分に活用した楽しい絵本ですね。

③絵本「セミたちの夏」

セミの 5 年間の地中生活と地上に出たからの 2 週間の生活を写真で楽しみましょう。そして絵本を見ながら科学の謎が解ける不思議な絵本です。

④絵本「おべんとう」

「皆さんはどんなお弁当のおかずが好きですか？」の問いに児童から「唐揚げ」「ウインナー」との意見が出ました。するとその意見を発展させ、本を楽しむのに年齢は関係ありません。老人ホームで絵本を読むと痴呆の方が絵本によってきておいしそうなお弁当をつまんで食べようとします。それを見ると私も一緒に食べます。本当においしそうですね。誰でも食べたくするのが自然ですね。

⑤東日本大震災チャリティーコンサート

東日本大震災で被災された方々を支援するため、チャリティーコンサートを開催しました。その義援金を持って被災の大きかった南三陸町に行ってきました。(写真を提示しながら)壊れた小学校の校舎を見て愕然としました。早い復興を願っています。

⑥絵本「はしれディーゼルきかんしゃデーデ」

東日本大震災で被災された方々が電気が届かず燃料も切れ、寒さに震えていました。そこで、架線が無くても走れるディーゼル機関車デーデたちが新潟県に集められました。デーデたちは暖がとれずに震えている被災者のもとに力の限り走り抜いて、重たい燃料を届ける実話に基づく感動的な絵本でした。

【実践の成果】

今回の教室は、絵本の楽しさを児童に伝えるだけではなく、坂上小学校の児童に育てたい人と人とのつながりの大切さを交えた講演でした。

講師からは絵本の読み聞かせの合間に「大好きなことを一所懸命にしていると、困った時に誰か助けてくれる人が現れます」「困っている人がいたら手助けしてやりましょう」といった言葉が語られ、児童もうなずいていました。また、講師の先生からは、「絵本は、年齢や人生経験に応じて読みや理解が深まります。これを機会にまた絵本を読んでください」との助言をいただき、児童からは「はい」という返事とともに笑みがこぼれていました。

児童からは「絵本っておもしろい」「絵本って本当に良くできている」「絵本の楽しみ方が分かった」等の感想が聞かれました。



(様式3)

平成25年度「未来を拓く特別授業」実践報告書

学校名 桐生市立北小学校
講師氏名等(職種) 山中 千尋 (ジャズピアニスト)

実施日	平成25年10月7日	対象学年等	全学年 (231名)
教科等	学校行事	授業(活動)名	未来を拓く特別授業

○実践の概要

当日は、本校創立140周年記念式典が行われ、本実践はその中で重ねて行われたものである。

式典では、本校卒業生であり、米国ニューヨークを拠点に活動しているジャズピアニスト山中千尋さんの伴奏により、記念の愛唱歌「夢の船」が初披露された。この愛唱歌は、詩を児童から募集、その中から選ばれた詩を山中さんが補作詞・作曲してできあがったものである。愛唱歌の制作は、世界で活躍する卒業生と共同作業を通じて児童の夢を育み、明るい未来を思い描いてもらおうと発案されたのである。

式典閉式後の記念コンサートの中で、山中さんは、「あいさつは、世界に通じるボディランゲージ」と語りかけ、「ラグタイム」「エリーゼのために」を演奏し、児童や来賓者、保護者から大きな拍手を受けていた。



○実践の成果

世界で活躍する山中さんの伴奏で愛唱歌を歌ったり、記念コンサートで生のピアノ演奏を聴いたりすることができた児童から、次のような感想が寄せられた。

「山中千尋さんの曲はきれいで、夢中で聴きました。二回弾いてくれて、涙ぐんでしまいました。山中千尋さんみたいになりたいです。」「ジャズピアニストの山中千尋さんの演奏で、すごく感動して、心が踊りたくなりました。とても楽しかったです。」

世界で活躍している自分たちの先輩の演奏を生で聴き感動した児童や、これから努力をして山中さんのように世界で活躍できる人間になりたいと夢を抱いた児童など、いろいろな思いの児童がおり、今回山中さんから得たものは大きかったようである。

また、式典後には、地域や保護者の方々から、これからずっと学校に残っていく愛唱歌を山中さんが補作詞・作曲してくれたことへの感謝の声や、山中さん本人の伴奏で全校児童が合唱できたことへの感動の声などが感想として挙げられた。

一流の人と共に同じ時間・同じ場所にいることで、「あんな人になりたい」という夢を抱く子どもも見られる。今回の授業を通して、子どもたちの未来を拓くことができたように思われる。

(様式 3)

平成 25 年度「未来を拓く特別授業」実践報告書

学 校 名

太田市立菰川西小学校

講師氏名

- ・山脇孝雄さん 新聞関係 (上毛新聞東毛総局長)
- ・高木祥充さん 法律関係 (弁護士)
- ・高田滋夫さん 旅行関係 (旅行業務取扱管理者)
- ・稲村 希さん 美容関係 (美容師)
- ・杉山亜希子さん 医療関係 (看護師)
- ・浅野邦夫さん 調理関係 (調理師)

実施日	平成 25 年 1 月 26 日	対象学年等	第 6 学年 (79 人)
教科等	総合的な学習の時間	授業(活動)名	自分探し～将来の自分を見つめて～

○実践の概要

- ・児童が 10～15 人のグループにわかれて、屋台形式で話を聞きたい講師のところへ行き話を聞いた。児童 1 人が 3 人の話を聞けるよう、20 分ずつ 3 回話を聞く時間を設定した。
- ・講師には、仕事の意義や内容、仕事をするうえで大切なこと、子どもたちに期待することなどを中心に話していただき、児童からの質問に答えていただいた。



○実践の成果

- ・各講師が資料を用意したり、児童に体験させたりして児童の興味を高める工夫をしてくださった。実際に働いている人と対面し、直接話を聞く場面になると、児童達は真剣にメモを取る姿が見られた。実演の場面では、講師の先生に教えられながら、ぎこちない手つきで道具を扱う児童の様子が見られたが、その顔はとても満足そうであった。本物にふれ、生の声を聞くことが児童の興味を高めたり、理解を深めたりすることに大変有効であると改めて実感した。



【児童の感想より】

- ・野球の取材は 1 人で 100 日以上も球場に足を運ぶことやパトカーや消防車のサイレンに敏感になり、すぐに追いかけて現場に行くことにおどろきました。新聞の記事を書くことは大変だけれど、読む人の気持ちを考えて書くことが大事であることがわかりました。
- ・美容師に向いている人は、明るく元気で、自分の事が好きで、好奇心スイッチがたくさんある人だと聞きました。私は、そのことを聞いて美容師のことをもっと知りたくなりました。カットの仕方や 1 日の仕事など、とてもわかりやすく教えていただきました。
- ・弁護士に必要なとおっしゃった「責任感」「正義感」「人の話をよく聞くこと」の 3 つは、学校生活でも活かせることだなと思いました。パソコンや本ではあまり情報が得られないことをわかりやすく教えてもらいました。
- ・私が今日心に残ったことは、色々な医療器具の使い方を実際に使って教えていただいたことです。杉山さんがお話をしてくださった「相手をおもいやる心」「相手のことを考えて行動する事」の大切さがわかりました。
- ・旅行にも法律があることや、仕事に就くために、たくさんの試験を受け合格しなければならないことにおどろきました。「旅行業は夢を売ること、みんなの夢をかなえること」とおっしゃられたことが心に残りました。
- ・うどん屋さんを 50 年も続けているなんて、すごいと思いました。先代から引き継いでお店を続ける際、大切なことはご近所づきあいが大切なことがわかりました。また、うどんをつくる道具や気候によってこねかたや作り方の種類が異なることも教わりました。

(様式 3)

平成 2 5 年度「未来を拓く特別授業」実践報告書

学 校 名 太田市立城西小学校

講師氏名等(職種) 佐々木ヒロ子(太田市朗読ボランティア)
大館 のり子(太田市朗読ボランティア)
熊澤 たき江(太田市朗読ボランティア)

実施日	平成 2 6 年 2 月 6 日	対象学年等	6 年 (1 2 6 人)
教科等	国語	授業(活動)名	1 2 の贈りもの

○実践の概要

春から中学生となる 6 年生全員に向けて、「1 2 の贈りもの」という題でメッセージを贈って下さる授業でした。太田市朗読ボランティアの方 3 名で、「力」「美しさ」「勇気」「信じる」「希望」「想像」「知恵」「敬う」「喜び」「才能」「愛」「誠実」「自分自身」、1 2 歳の子供達にとってこれから大切となる言葉の贈りものを、感情を込めて朗読して頂きました。人生の節目を迎える子供達にとって、心に残る大切な授業になりました。

○実践の成果

「1 2 の贈りもの」の授業を終え、子供達は 1 つ 1 つ大切なメッセージをかみしめていたようです。感想として、「ぼくは人に優しくする強い心を持っていたい。」「私は、知恵をいっぱいふやし、自分の道をたくさん見つけたい。」など、将来へ向けてこの授業から考えさせられたようです。

(児童の感想より)

・私は、1 2 の贈りものという話を聞いてとても感動しました。心にひびいたのは一番大事な言葉は自分自身の存在という言葉です。どんなかべがあったとしてもこの言葉を思い出します。ありがとうございました。

・1 2 の贈りものを聞いて、中学での不安が少しなくなりました。私にはたくさんのが心にあるとわかり前向きに自分が持っているものを使って生活していきたいです。お話しをしてくださってありがとうございました。

・今日は、読み聞かせに来てくださってありがとうございました。1 2 の贈り物を聞いて、とても感動しました。僕にもそのような贈り物があるのだと思うと命の大切さがわかりました。

・1 2 の贈り物という本の読み聞かせをしていただいて改めて力・美しい・敬う心・愛・信じる心・智慧などを大切に思いました。

・力・心・美しさ・勇気・そして愛などのことを話していただき本当に感動しました。毎年城西小でクローバーの方の贈り物の読み聞かせを開いてくださってありがとうございます。このことを中学校でも生かし、この思い出を大切にしようと思います。



(様式 3)

平成 2 5 年度「未来を拓く特別授業」実践報告書

学 校 名 太田 市立 綿打小 学校

講師氏名等(職種) 相原 誠 (体操教室インストラクター)

実施日	平成 2 5 年 9 月 2 4 日	対象学年等	6 年 (8 3 人)
教科等	総合的な学習の時間	授業(活動)名	美しく表現するために

○実践の概要

「本番の演技を他の人に見てもらえられるようになるには、1万回の練習が必要である」ということから話が始まった。運動会直前ということもあり、運動会で行う組み立て体操について上手になる方法を交えながら「できること」「意義を感じること」「したいこと」について、集団との関係を感じながら、自分自身の気持ちが身体に伝わり表現がされていくことの重要性を学べた。

まず、最初に、体育座りと立つ姿勢の動きを行った。ただ立つだけ、ただ座るだけと思っていた児童は、立つときには、「気をつけて立つこと」「気をつけて立つとは、中指を伸ばすこと、視線の位置を一定にすること、ふらふらしめないこと、かかとをつけること」など複数の視点に意識を向けると美しく立ったり座ったりできることがわかった。

次に、動きには、決めのポーズになる部分と途中の動きがあり、決めのポーズの部分では、しっかり止めて「間」をつくる必要があると共に、途中は素早く動かすことで動きは美しく見えることをとらえることができた。そして、ただ四つ足の状態に立つ場合でも、お腹に力を入れないときれいに見えないことが分かった。

集団で活動する際には、一人一人が埋もれがちになるが、自分が一人で活動する場合を想定したり、やる気や期待に応えることが重要であったりすることが学べた。そして、表現には、自分の心や気持ちが伴わないといけないことを学んだ。

○実践の成果

児童たちは、心と体が結びついていることを学び、心の中を体に伝わるようにするためには、身体の細かい部分に気をつけることができるようになった。

<児童の感想から>

- ・がんばりたい、できるようになりたいことは1万回やるのが大切だと思いました。
- ・集団で行う活動は、一人一人が大切であることを学べた。「自分は別にいなくても」と少し思っていました。わざわざ見に来てくれる人の期待に応えられるようにしたいと思いました。「気をつけ」をするだけでもとても疲れた。家でも一生懸命に練習して、自分の中に秘めているものを引き出せるように頑張りたいです。
- ・今日一番学んだことは、集団での活動は、一人が美しくないと全員が美しく見えないということです。そして、体を美しく表現できるようにするには、力を入れるポイントがあることが分かりました。
- ・集団での活動は、一人一人が大切であること、心をつつにする必要があることなどが本当によかったと思いました。



(様式 3)

平成 2 5 年度「未来を拓く特別授業」実践報告書

学 校 名 太田市立南小学校

講師氏名等(職種) 城代さや香(ヴァイオリニスト)

実施日	平成 2 5 年 1 1 月 8 日	対象学年等	全学年 (4 3 5 人)
教科等	特別活動(学級活動)	授業(活動)名	未来を拓く特別授業 「夢をかなえるために」

○実践の概要

「人生の先輩である様々な分野で活躍している人材を講師として特別授業を実施することにより、児童に将来に向けての夢や希望を育むなど、キャリア教育の推進を図る」という本事業の趣旨に従い、城代さや香さんに講演を依頼した。城代さんは、本県太田市生まれ、太田市立南中学校出身ということで、児童にとっては身近な人生の先輩にあたる。プロのヴァイオリニストとして活動し、25年9月からは100年の歴史があるフィンランドのオーケストラのコンサートマスターに就任されて世界でも活躍されている方である。

当日は、ピアノ伴奏とともにヴァイオリン演奏を鑑賞。お話では、自分が小学生の頃の夢や、「自分の道を切り開いていくためには、毎日少しずつ努力を積み重ねていくこと、日々の生活の中で次はこうしてみようという目標を持つこと」などを児童に伝えて下さいました。



・プロの生演奏を鑑賞



・ヴァイオリンとピアノ演奏に合わせて「翼をください」を合唱



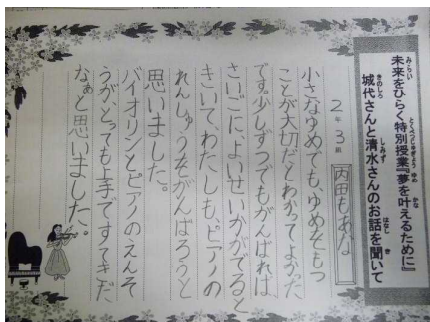
・児童の近くでもヴァイオリンを演奏して下さいました。

○実践の成果

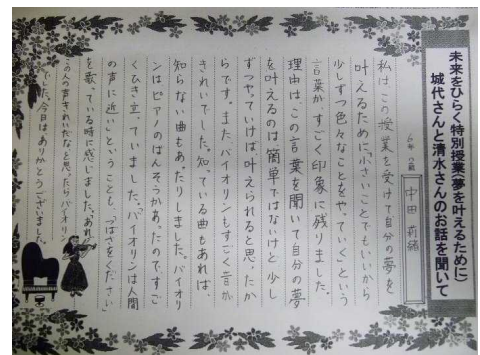
自分たちの地元の身近な先輩で、プロとして活躍される城代さんの演奏と話しに大きな刺激を得たようです。ヴァイオリン演奏を生で聴けたことに感動したり、大きな夢を叶えるためには小さな努力の積み重ねが大事だということに気付いたり、日々の生活を見直すきっかけとなったりしたことが、授業後に書いた手紙から分かります。児童一人一人が、夢を持つことの素晴らしさを、特別授業を通して感じる事ができました。

以下は、児童が城代さんに送った手紙です。

2 年 児 童
感 想 →



6 年 児 童
感 想 →



(様式3)

平成25年度「未来を拓く特別授業」実践報告書

学 校 名 みどり 市立 笠懸 小学校

講師氏名等(職種) 青柳寿美江 (あずま小学校教諭)

実施日	平成26年 2月20日	対象学年等	6 年 (197人)
教科等	総合	授業(活動)名	進路学習

○実践の概要

長期研修に行ったサンデンフォレストの紹介から始まり、会社の様子や仕事内容などプロジェクターに映し出しながらお話をしていただいた。いろいろな研修を経験する中で知らないことを知る楽しさ、知らないことに出会ったときに調べたり考えたりしてみるものの大切さ、挨拶や返事の大事さなど、これからの生活に大切なことを教えていただいた。

「出会いは人を育てる。」「分かっていることと、できるということは違う。」「知らないことは、調べても聞いてもいい。」など学校外での体験をふまえた話に、児童はいつも以上に集中して話を聞くことができた。

○授業の様子



○児童の感想

- ・ぼくは、先生の話聞いて、「分からなくても聞いたり調べたりして挑戦してみるということの大切さ。」や、「努力や協力の大切さ。」を知りました。これからは、分からないことがあっても挑戦してみようと思いました。
- ・キャリア学習のキャリアとは、「経験」という意味もあるので、先生は、いろいろなことをたくさん経験して行ってほしいということを伝えたかったと思います。これから大人になるにつれてつらいことや分からないことがあると思うので、それに挑戦して、努力をして、いろいろな人と協力してがんばっていこうと思います。そして、たくさんの経験を積んで生きていきたいです。
- ・先生の話聞いて、生き物一つ一つの命を守るということがとても大切。その命を守るためには環境を大切に守っていくことが大切だと改めて思いました。そして、自分たちでも環境を守っていくことができると思うので、ぼくも小さいことを一つ一つこつこつと努力していきたいと思いました。それは、環境のことに限らず、勉強、運動も一緒だと思うので、何でも小さいことから一つ一つ努力していきたいと思いました。

(様式3)

平成25年度「未来を拓く特別授業」実践報告書

学校名 前橋市立第六中学校
講師氏名等(職種) 菅原英直(理学博士)

実施日	平成25年10月10日(木)	対象学年等	3年(126名)保護者(15名)
教科等	特別活動学級活動進路指導	授業(活動)名	キャリア教育講演会

キャリア教育講演会(未来を拓く特別授業) ～進路の選択を誤らないために～

○「実践の概要」

人生の先輩である様々な分野で活躍している地域人材を第六中学校の講師として招聘し、講話や交流、体験的な活動などの特別授業を実施していただくことにより、生徒の将来に向けての夢や希望を育むことを目的としたキャリア教育を推進する。

今回は、3年生が対象で、1月上旬から始まる私立高校受検・公立高校前期選抜・後期選抜等の試験に対して、その心構えや高校や大学等の上級学校を卒業後の進路選択について、支援しアドバイスをいただける講師の方を依頼したいと考えた。

その結果、上細井町在住で元群馬大学教授であり、平成15年度まで群馬大学附属中学校の校長であった菅原英直先生に講師を依頼した。菅原先生は、中学校教育に詳しく、中学三年生の卒業後の選択やこれからの生き方を考える上で、最もふさわしい講師をお願いできたと考える。

講演の内容は、自分の半生と吉田武さん(クリーニング師)の生き方を紹介した後、以下の六項目について、パワーポイントで詳しくお話をいただいた。

- 1 興味関心の強い分野をのぼす
- 2 「仮の目的」と「本当の目的」を区別する
- 3 ①「失敗」を大切に! ②「劣等感」を大切に!
- 4 自分を客観的に分析する習慣
- 5 「なぜ」「どうして」と考える習慣
- 6 進路の決定、最後は自分で!

講演会終了後、生徒各自は講演の内容を自分に当てはめて、感想を書いた。生徒の感想については、講師にいくつかを送付するとともに、学校だよりで紹介することができた。

○「実践の成果」

来月に第2回目の三者面接を控えた3年生にとって、菅原講師からお聞きした貴重な内容は、志望校を決定する重要な時期に確実に生かせるとともに、来年の1月から始まる私立高校受験や公立高校の受検等に対しての基本姿勢ができた事と考える。また、PTA学年委員長をはじめ15名の保護者の方々に参加いただき感謝申し上げたい。

以下、キャリア教育講演会の内容を写真で紹介したい。



< 熱く語る菅原先生の講演開始 >



< 菅原先生半生からの講演開始 >



< 3年の保護者も15名ほど参加 >



< 生徒代表の謝辞・花束贈呈 >

(様式3)

平成25年度「未来を拓く特別授業」実践報告書

学校名 前橋市立第六中学校
講師氏名等(職種) 近藤 功(伝道師協会会長)

実施日	平成25年10月30日(水)	対象学年等	全学年(406名)保護者(50名)
教科等	特別活動学校行事	授業(活動)名	文化講演会(学校行事)

文化講演会(未来を拓く特別授業) ～富岡製糸場と絹産業遺産群について～

○「実践の概要」

人生の先輩である様々な分野で活躍している地域人材を第六中学校の講師として招聘し、講話や交流、体験的な活動などの特別授業を実施していただくことにより、生徒の将来に向けての夢や希望を育むことを目的としたキャリア教育を推進する。

さて、東方文化発祥の地といわれる総社・清里地区にあるここ第六中学校で、学習発表会という学校文化の祭典の当日に、「富岡製糸場と絹産業遺産群」～世界を変えた日本の技術革新～というテーマで文化講演会を開催できることは大変に意義のあることと考える。そして、この講演は全校生徒が対象であるので、中学1年生でも理解できる内容ということで、小学生を対象とした内容で講演していただいた。

ご承知のとおり、「富岡製糸場と絹産業遺産群」は、国や民族を超えて、共有すべき「顕著で普遍的な価値」をもつ、人類共通の財産として、今年の1月に日本国が推薦書をユネスコに提出して、同じく今年の夏にユネスコの諮問機関であるイコモス(国際記念物遺跡会議)委員による現地調査が行われたばかりである。また、当日に前橋市のユネスコ協会会長の庭屋会長がこの講演にご来校いただいたが、この第六中学校は、市ユネスコ協会から推薦され、前橋市の中学校では初めて、ユネスコスクールに認定されるために、本年度ユネスコ本部に申請をしたことも、時期を同じくしている。

講演会終了後、生徒一人一人は講演の内容を自分に当てはめて、感想を書いた。生徒の感想については、講師にいくつかを送付するとともに、学校だよりで紹介することができた。

○「実践の成果」

富岡製糸場と絹産業遺産群について、直接伝道師協会会長の近藤会長からお話をお聞きできたことは、生徒たちにとって、素晴らしい経験になったことと考える。この講演をきっかけにして、家族で富岡製糸場を訪問して、世界遺産候補地の素晴らしさを体験してみたいとの感想を書いた生徒が多かった。やはり、何事も一流の本物の説明・人物に触れることは生徒たちにとって、素晴らしい経験になると考える。

また、保護者や地域の皆様等たくさんの方々に参加いただき、深く感謝申し上げたい。

以下、キャリア教育講演会の内容を写真で紹介したい。



<全校生徒へ近藤先生の講演開始>



<近藤先生の分かりやすい講演>



<たくさんの地域の方や保護者が参加>



<生徒代表の謝辞・花束贈呈>

(様式3)

平成25年度「未来を拓く特別授業」実践報告書

学 校 名 前橋市立第六中学校

講師氏名等 (職種) 阿部 裕志 (会社社長・元前橋ライオンズクラブ会長)

実施日	平成26年2月7日(金)	対象学年等	1年(145名)保護者(14名)
教科等	特別活動学級活動進路指導	授業(活動)名	キャリア教育講演会

キャリア教育講演会(未来を拓く特別授業) ～会社社長(リーダー)に必要な3つの事について～

○「実践の概要」

人生の先輩である様々な分野で活躍している地域人材を第六中学校の講師として招聘し、講話や交流、体験的な活動などの特別授業を実施していただくことにより、生徒の将来に向けての夢や希望を育むことを目的としたキャリア教育を推進する。

今回は、1年生が対象で、今年9月上旬から始まる職場体験学習に対して、様々な知識や経験をお持ちの方や各分野で活躍している方々から、充実した生き方や職業観・勤労観等について多角的にアドバイスをいただけることは、性格や個性が形成される1年生にとって有意義だと考えられるので、その講師の選定を検討してきた。

その結果、六供町在住で、(株)ダスキン前橋社長で(株)エテルノ社長であり、元前橋ライオンズクラブ会長であった阿部裕志先生に講師を依頼した。阿部先生は、会社やライオンズクラブの活動の様子を紹介するとともに、社長にとって必要な3つの事や職場体験学習をするときの大切な2つの事を中心に講演された。

これから迎える職場体験学習や今後の生き方を考える上で、中学1年生にとって最もふさわしい講師をお願いできたと考える。

講演の内容は以下の5項目について、詳しくお話をいただいた。

- 1 (株)ダスキン前橋の会社の活動紹介
- 2 (株)エテルノの会社の活動紹介
- 3 前橋ライオンズクラブの活動の様子について
- 4 会社社長に必要な3つの力について
- 5 職場体験学習をするときの2つの大切なことについて

講演会終了後、生徒各自は講演内容の感想を書いた。生徒の感想については、講師に10名程の感想を送付するとともに、学校・学年だよりに紹介した。



<ダスキン前橋の会社の説明>



<水を扱うエテルノの会社の説明>



<保護者も14名ほど参加した>



<1年生代表女子生徒の謝辞>

(様式3)

平成25年度「未来を拓く特別授業」実践報告書

学 校 名

前橋市立春日中学校

講師氏名等(職種)

春日中卒業生3名(高校2年生)

実施日	平成25年9月17日	対象学年等	3年(83人)
教科等	総合的な学習の時間	授業(活動)名	先輩の話から学ぶ

○実践の概要

9月17日(火)の5,6校時に、3年生全員を対象に体育館で実施した。本校卒業生である3名の高校生から、学校生活のことや進路選択の際のアドバイス等を話してもらった。3名共実業高校であるため、中学校にはない特殊な授業についてや、取得可能な資格について詳しく話してくれた。勢多農の生徒はトリマーの授業で使っているハサミや作業着を実際に持ってきて、見せながらの説明であった。それぞれが話した後には質疑応答の時間があつたため、さらに詳しく高校生活について知ることができた。

○実践の成果

本校の卒業生からの話ということもあり、生徒たちは今まで以上に高校への関心を高めるきっかけとなつたと思われる。また、受験生の頃の勉強方法や面接試験の経験談が聞けて参考になり、これからの学習に生かしていきたいと考えるようになれたようだった。

○生徒の感想

3名の先輩方のお話を聞いて、高校の様子がさらに分かりました。特に、どれも普通校ではなくて内容を想像しづらい学校ばかりだったので、先輩方の話を聞いて良かったです。普通科ではない高校では、教科書の勉強だけでなく、実践しながら学ぶ勉強が多いのだと思いました。自分の夢に向けて具体的な事ができるのは、面白いと感じました。

前商の話からは、資格をたくさんとっていくと聞いて、卒業後の就職方面の事も考えてあるのだなと思いました。勢多農の話からは、農業高校の特色がよく分かりました。どの学校もですが、目的を持って入ったら勉強意欲が上がるだろうなと思いました。伊勢崎工業の話では、普通科と違い教科が増えるので受験より勉強が大変だと聞いて、高校にはやはり心して行かないといけないなと思いました。

どの話も、高校の事を知る上でとても参考になりました。これからもっと勉強して受験に備えていきたいと改めて思いました。



(様式3)

平成25年度「未来を拓く特別授業」実践報告書

学 校 名

前橋市立春日中学校

講師氏名等(職種) 大澤 茂 (三ツ葉楽器株式会社社長)

住谷 公久 (中央工科デザイン専門学校)

実施日	平成25年11月26日	対象学年等	2年 (72人)
教科等	総合的な学習の時間	授業(活動)名	進路シンポジウム

○実践の概要

11月26日(火)5・6校時に、2年生を対象に音楽室で実施した。三ツ葉楽器社長の澤さんからは、実際にウクレレを見せながら会社経営の中で厳しい状況乗り越えて来たことや、夢を持って頑張ることの大切さを話していただいた。中央工科デザイン専門学校の住谷さんからは、パワーポイントを使いながらグラフィックデザイン等パソコン関係の仕事について詳しく話していただいた。また、あいさつの大切さや、幅広い知識を身につけていく必要性を話して下さった。



○実践の成果

生徒たちはメモを取りながら熱心に話を聞いていた。二人の講師の方々から、仕事に対する熱意を持って働くことが大切だと感じていた。パソコンやゲームを好む生徒たちは専門的な話を聞いて、職業として興味を持つようになったようであった。受験を来年に控えたこの時期に、改めて将来について考えるきっかけとなった。



○生徒の感想

・どちらの方も説明が分かりやすく、聞いていてとても楽しかったです。楽しい中でも学べることはたくさんありました。今日の話聞いて自分の将来を悩みました。自分は何になりたいのか考えました。でもまだ決まっていません。早いうちに決めて、その夢に向かって頑張りたいと思いました。

・ウクレレを作る会社とデザイン専門学校の方、二つの分野の方々から、日本で唯一のウクレレを作っている理由や、デザインなどの分野で大切なことなどを教えていただきました。自分の夢を持つことや、今から様々な勉強に取り組むことが大切だと思いました。将来への進路の道が広がったと思います。貴重なお話を聞けてよかったです。

・二人の講師の方が言っていたことで気になったのが「熱意」という言葉です。どんな職業でもその仕事に対する「熱意」が一番大切なのだなと思いました。二人の講師の方と同じ仕事に就くかはわからないけれど、他の職業でも活用できることをたくさん教えてもらったのでよかったです。将来のためになる話を聞けてよかったです。私も夢に向かって頑張っていきたいと、改めて思いました。

(様式 3)

平成 25 年度「未来を拓く特別授業」実践報告書

学 校 名 前橋市立宮城中学校

講師氏名等(職種) 吉光 司 (電力中央研究所上席)

実施日	平成 25 年 11 月 15 日	対象学年等	2 年 (50 分×2 クラス)
教科等	技術・家庭科	授業(活動)名	B エネルギー変換に関する技術

○実践の概要 「一電気の仕組みを探ろうー」

電気ができる仕組み (15 分)

- ・ ネオジウム磁石による発電、ジェネレーターによる発電実験
- ・ 立体磁界・・・演示実験

電気を作る (10 分)

- ・ 発電方法・・・火力発電の仕組みの演示実験、他プレゼンテーション
- ・ 交流と直流

エネルギー利用に伴う諸問題 (8 分)

- ・ 化石燃料の埋蔵量、原子力発電・・・プレゼンテーション
- ・ 温暖化・・・プレゼンテーション

消費電力 (15 分)

- ・ 白熱電球と LED の電力消費量の違い・・・電力量計で電力の測定
- ・ 家電製品の省エネについて

課題提起 (2 分)

- ・ 資源エネルギー、温暖化について考える・・・プレゼンテーション



○実践の成果 (生徒感想)

宮城中にはない実験器具で、実験を体感できたので良かった。手でモータを回してみても電気を作ったり、磁石を左右に振って作って見たりと考えたことがなかったような作り方で作っていてびっくりしました。火力・水力・原子力の環境への影響なども知れて良かった。改めて資源の大切さがきちんと理解できたので、親などに話してみようと思います。

今回の先生の授業を通して発電に関しての環境問題やコストのことなどメリットやデメリットについて知ることができました。今ほとんどが火力発電で補っているようなので、石油は無限にあるのではないので、節電などに気をつけていきたいです。

○昨年度来、地元の電力中央研究所様の協力の下に技術・家庭科の B エネルギー変換に関する技術分野の学習の依頼をおこなっている。導入段階では、簡単な実験装置で電気エネルギーが発生することから導入を進めていただいている。エネルギーに関する数多くの実験装置を演示し、ところどころに諸問題等を課題提議した授業展開は講師の方の経験豊かさを感じることができた。1 時間の授業の中で学習した内容は、生徒にとって大変有意義な中身の濃いものであった。

(様式3)

平成25年度「未来を拓く特別授業」実践報告書

学 校 名

伊勢崎市立殖蓮中学校

講師氏名等(職種)

吉田 修一 (製造業・開発職)

実施日	平成25年 9月17日	対象学年等	2年(170人)
教科等	総合的な学習の時間	授業(活動)名	「働くことの意味」

○実践の概要

サンデン(株)の吉田 修一さんに、職場体験学習(チャレンジウィーク)に向けて、進路講演会(生き方講座)において、「働くことの意味」について講話をしていただきました。最初に、みなさんは、「夢はありますか」と生徒に投げかけ、自分は「新しいものに挑戦して物を作りたい」という夢があり、「具体的な目標」をもつと生き方が変わってくると話してくれました。物を作る過程に喜びやわくわくドキドキしながら仲間と一緒に1つプロジェクトを成し遂げていくことに達成感があり、人生の財産になると話してくれました。また、常日頃から「どうやったら人に喜んでもらえるのか」を考えることで、社会に貢献することでお金が貰え、社会のために役立っていることが生きがいになっている。お金目的では、やりがいもなく楽しくない。「働くことの大切さ」は、自分が成長でき、次世代に伝えることができる。目標を達成するために、いつまでにやり遂げたいかを日付をつけておくことが大切であると話されていた。

最後に、「働くことの喜び」は、新しい技術を生み出し、お客さんに評価され感謝されたときである。また、仲間と一緒に1つのことで成長し、自己実現できたことに幸せを感じることができるとのことでした。

○実践の成果

(生徒の感想)

○今日の話では、目標をしっかりとって夢に向かって努力するということが、わかりました。サンデンの仕事内容も知り、仕事とは給料をもらうためにするものではなく、世界に貢献できるよう人のためになることをするから給料がもらえenと思いました。そう思って仕事をするときっと楽しんだなあと思いました。学校に置き換えて部活動や勉強も目標をもったり、自分のためだけでなく人のためにも頑張れることが大切だと思います。今日話を忘れずにこれからに活かしていきたいと思いました。

○吉田さんは、まだ35歳なのにリーダーなんてすごいと思いました。話を聞いていると努力家なようだし、やっぱり努力したからリーダーになれたのかなと思いました。後、目標をたくさんもっているのがすごいと思いました。私は、目標というのがないので早めに作りたいと思いました。吉田さんは新しい事にチャレンジする事が好きだと言っていました。私は、あまり新しい事にチャレンジする勇気がないので思い切って何か新しい事にチャレンジしてみたいと思いました。

(保護者の感想)

○今回の講演会を通して、生徒一人ひとりが働くことの意味や大切さを考えるきっかけとなり、職場体験学習前に何を感じ、考えたことを体験学習で生かされるように期待しております。



(様式3)

平成25年度「未来を拓く特別授業」実践報告書

学校名 伊勢崎市立あずま中学校

講師氏名等 (職種)

藤本 宗利

(群馬大学教育学部教授)

実施日	平成25年6月26日 5校時	対象学年	2年246名
教科等	国語	授業(活動内容)	古典との出会い

「古典との出会い—枕草子を中心として—」

実践の概要

6月26日(水)5校時、2年生246名を対象に、約1時間の講話をしていただきました。未来力ということ意識していただき、最初に「人生のターニングポイント」ということで、ご自身の進路決定についてお話をしてくださいました。百人一首が支えになったことや教授の一言によって今の自分があるなど、将来の生徒たちに役立ちそうなお話でした。



[生徒たちに語りかける藤本先生]

「枕草子」のお話では、書き手を「筆者」と呼ぶべきかということから始まり、『枕草子』の学習を通して、作者や昔の人のもの見方、感じ方を学ぶ」ということに対して疑問を投げかける形でお話を進められました。

当時は、夏と言えば「ほととぎす」だったり、秋と言えば「もみじ」だったりしたことなど、具体例を示しながら説明してくださいました。そして、「枕草子」の季節感が特殊で、

「枕草子」が当時の知識人たちに向けて書かれたことなどを説明してくださいました。

生徒たちは、藤本先生のお話を通して、批判的に読むこと、いろいろな角度からものを見ること、疑問を持つこと、考え追求することの大切さなどを学ぶことができました。



[熱のこもった講話]

実践の成果

古典を通して、固定観念にとらわれず、物事をいろいろな可能性を持って考えるという良い気づきが出来たと思います。生徒たちも興味深く聞くことができていた。

生徒の感想

○教科書を疑ったことは今まで全くなかったけれど、今日のお話を聞いて、少しは疑った方がいいのかなと思いました。筆者＝作品と今まで自分は思っていたのですが、それも違うことが分かりました。清少納言がなぜ「枕草子」を書いたかということも、ただいいと思ったことを書いたのではないことが分かりました。今日はいろいろなお話を聞くことができ、新たな見方ができるようになりました。

○国語の授業で習わなかったり、そこまで追求しなかったところまで、藤本先生は、面白く細かく教えてくださり、分かりやすかったです。覚えて暗唱してただ言えるだけでいいと思っていました。ですが、時には細かく追求してみることもいいと思いました。



[熱心にメモをとる生徒たち]

(様式3)

平成25年度「未来を拓く特別授業」実践報告書

学校名 伊勢崎市立あずま中学校

講師氏名等 (職種)

藤本 宗利

(群馬大学教育学部教授)

実施日	平成25年6月26日	6校時	対象学年	3年	276名
教科等	国語		授業(活動内容)	古典との出会い	

「古典との出会いー和歌の世界を中心としてー」

実践の概要

6月26日(水)6校時

第3学年276名を対象に約1時間の話の中で、生徒が未学習であることを考慮いただきながら、古今集を中心とした専門的な解釈のお話をいただいた。

まず、「力(パワー)としての和歌」について、和歌とは「外界の事物に託して表出した言語表現」であることや「相手を共感させる言語表現」であること、「個」的情念をどのように広げていけるかが大切であることをお話しいただいた。作者という概念を捨て、『寄物陳思』の考え方を強調されていた。

次に、「恋歌を遊ぼう」から、短歌や俳句の創作課題を生徒に宿題として課し、①テーマを決める。②主人公を決める。③5W1Hでドラマを構成する。④季節の事物を入れ込む。というポイントを示していただき、実例をもとにして作者を考えず、自分の空想の世界で展開すればよいことをお話しいただいた。

先生のお話のおもしろさに、あっという間に時間が過ぎてしまい、知的好奇心を満足させられる1時間であった。

実践の成果

事前の生徒の実態では、古典に対する苦手意識があったので、1時間集中できないのではないかと心配していたが、生徒全員が真剣な表情で話を聞き、時折先生の冗談に対して、笑いがもれる場面があった。

また、受験生であることを意識されて、「選んだ道が自分のベストである。」結局は、「自分のキャラを持って生きていくしかない。」と進路に関する話も交えていただいた。

大学で活躍している方が、専門的な「授業」をしてくださったことにより、生徒たちはまずその専門性に触れ、藤本先生の生き方に触れた。楽しんで

学習や研究を続ける生き方の素晴らしさや、自らの夢や希望をもつことの大切さに気づけたのではないだろうか。それが、生徒たちのこれからの学習への意欲の向上にもつながると感じた。

生徒の感想

今回の講演会で和歌に対するイメージが変わりました。



学習という内容から、それ自体を楽しんだり、つくったりするという考え方になりました。和歌の世界は、思っていたよりも、自由で楽しいものだと感じました。

生徒作品

【短歌】君を待つ 紫陽花の花 濡れる頃

我が心をも 雨に濡れつつ

【俳句】夏の空 気付けば部活 もう引退

保護者の感想

娘から短歌と俳句、そして和歌という言葉を知り、なぜか懐かしさを感じました。講座のことを娘から教えてもらい、家族で意見を出し合いながら、つくってみたので楽しかったです。

(様式3)

平成25年度「未来を拓く特別授業」実践報告書

学校名 伊勢崎 市立 あずま中 学校
講師氏名等(職種) 皆川 さゆり ((有)イマージュ 研修部長)

実施日	平成25年7月5日	対象学年等	2年(246人)
教科等	総合的な学習の時間	授業(活動)名	よい人間関係をつくるために キャリアウィークに向けて身につけておきたいこと

○実践の概要

7月5日(金)の5校時に、2年生全員を対象に本校多目的ホール「ふれあいホール」で、実施した。キャリア教育の一環として、9月2日～6日に実施するチャレンジウィークに向けて職場でのあいさつの仕方、言葉遣い、身だしなみについて話して頂いた。

あいさつの指導ではまず声をだしてその後に動作を行う分離礼を練習し、言葉遣いの指導では「お願いします」など職場で使う基本的な言葉の練習や自己紹介をなど全員が声を出して行った。第一印象は目から入るものが90%以上を決めるということから、生徒は自分自身の姿勢や服装について見直すよい機会になった。



○実践の成果

教師の指導と違い、マナーを専門に指導されている方からの指導ということで生徒は緊張感をもって聞いていた。ポイントが絞られていたので中学生にはわかりやすかったようである。また、職場体験に向けての心構えをつくることができた。

以下、生徒の感想をいくつか紹介したい。

☆私は、自然な笑顔ができなくていつも無愛想になってしまいます。わたしにとって皆川さんはあこがれの人です。今回の講座のおかげであいさつ、言葉遣い、第一印象の大切さをもう一度確認することができました。自己紹介もサラッとできそうです。学んだことをいかして職場体験を頑張ろうと思います。

☆あいさつの「あ」は明るく元気に、「い」はいつでも、「さ」は先に、「つ」は続けて、が大切だと教えていただきました。私は職場体験にいったらまず、元気に笑顔で事業所の方にあいさつしたいと思います。また第一印象も大事だと教えていただいたので身だしなみを整え、マナーを守ってきちんとした態度で仕事に取り組みたいです。

☆今回の講座で、お辞儀をするときの姿勢は背筋を伸ばし、腰を30度まげること、終わったあとも下を向かないなど意識をしなければならぬことを教えていただきました。これらのことは職場体験の時だけでなく社会に出てからも大切なことなのでこれらの生活に是非生かしていきたいと思います。



(様式3)

平成25年度「未来を拓く特別授業」実践報告書

学校名 伊勢崎市立あずま中学校

講師氏名等 (職種)

フライマン根岸由紀子

(共愛学園前橋国際大学グローバル人材育成推進本部事務局 専門員)

実施日	平成25年9月19日 5校時	対象学年	2年 244名
教科等	総合	授業(活動内容)	『あずま』から海外へ

『あずま』から海外へ

実践の概要

9月19日(木)の5校時に「未来を拓く特別授業」として、フライマン根岸由紀子さんを迎え、「『あずま』から海外へ」という演題で講演会を行なった。

自身の学生時代の体験、海外生活を通じてのアドバイスなど、貴重な体験や数々の人々との出会いの中で気づいたことをベースとした、示唆に富んだ話が聞くことができた。

まず最初に、語学習得の近道ということで、

- ① 会話はペーパーテストとは違い、完璧でなくても通じる！
- ② ネイティブになるために努力することは大切である。しかし、多少アクセントが違っていても言葉は通じる！
- ③ 間違いを恐れることなかれ。まずは話してみることが大切！



という3つのアドバイスを頂いた。

続いて、日本と外国の文化や生活の違いについての話があった。イスラエルでの内戦やテロの話、死海や地中海の美しい風景の話、根岸先生自身が海外で改めて感じた日本文化の素晴らしさなど、どれもたいへん興味深い話で、あっという間の50分間であった。

実践の成果

根岸先生の話の中に込められた「広く世界を見てほしい」「グローバルな舞台に積極的に挑戦し活躍してほしい」という思いは生徒たちに十分に伝わり、生徒たちはこの貴重なアドバイスを聞き漏らすまいと真剣に聞いていた。

生徒の書いた感想の中には次のような思いがたくさん書かれていた。

<生徒の感想>



○僕は、英語などを完璧に話せなくても海外で通じることを知ってとても安心しました。

○3年生になったらぜひ語学研修に行ってみたいと思いました。

○社会人になって海外に出て、いろいろな国のいろいろな人と接してみたいと思いました。そのために今できることは数学・英語などの科目を頑張らなくてはならないと思います。

○根岸先生の話聞いて、僕も海外を飛び回って仕事してみたいと思うようになってきました。この小さい日本から

抜け出して、広い世界へ行けるように頑張っていきたいと思いました。

(様式3)

平成25年度「未来を拓く特別授業」実践報告書

学校名 伊勢崎市立あずま中学校

講師氏名等(職種)

吉田 修一(サンデン)

実施日	平成25年10月11日(金) 5校時	対象学年	1年254名
教科等	総合	授業(活動内容)	夢をもって生きる

実践の概要

サンデン株式会社で、新製品開発を行っている吉田修一氏による未来力学習講座が、本校1年生を対象として開催した。

吉田氏のプロフィール紹介、中学・高校時代の出来事やサンデン入社のかきかけ、また現在の仕事についてのお話から講座が始まった。その後、「今、夢を持っている人はいますか。」という生徒たちへの問いかけがあり、どうして夢を持つことが大切なのかを、プロジェクターを活用しながら熱く語ってくれた。

☆講座の内容☆(抜粋)

○「目標」があると生き方が変わる！

「夢」が難しければ、「目標」という言葉に置き換えてみよう。目標があると、達成までの過程に喜びや幸せを感じられるようになる。目標が達成できたときのことを想像すれば、ワクワクしたりドキドキしたりすることもできる。目標に向かって生きたことが何よりの財産になる。



○「目標」を見つけるには広い視野が必要！

色々な人と話をする。色々なことに興味を持つ。多面的な視野で物事を考えることで自分の目標が見えてくる。

○「目標」達成のために石を置け！

いつまでに何をするかを、はっきりと決め、そこに石を置いていく。そして、それを繰り返す。また、努力する過程が大切なので、決して結果だけではないことを覚えておく。

○「目標」の先に「夢」が見える！

目標が達成できれば、夢が実現する。目標に向かっていて新たな夢がうまれることがある。目標も夢も人生に大きな価値を与えてくれる。夢に向かって中学校生活を頑張ること。

講座の終わりには、実際に仕事を進める上での様々な苦労についても触れられ、結果を求められるがその分のやりがいがあることや、チャレンジすることの価値が話されました。

実践の成果

今を精一杯に生きることが夢の実現の近道であることや、中学校生活を悔いのないよう過ごすことが何より大切であることが強調され、中学生に訴えていた。

☆生徒の感想☆

○ぼくは、まだ夢がないので目標を立てるという簡単なことをしてみようと思います。いつか自分に夢ができ、その夢をかなえようと頑張っているときに、吉田さんの話を思い出せたらと思います。

○目標があれば、今、頑張っていることに対して「何のためにやっているんだろう。」というような疑問は無くなってくるという話を聞いて、自分も目標をしっかり作ってみようと思った。

○吉田さんの話から、中学生の時にしかできないことがあることを聞いて、部活や勉強にすこしがんばろうという気になった。

―――生徒たちの感想を読むと、将来に向けて今を大切にしていけることが不可欠であると感じた生徒がほとんどであった。―――

(様式3)

平成25年度「未来を拓く特別授業」実践報告書

学校名 伊勢崎市立あずま中学校

講師氏名等(職種)

藤本 宗利(群馬大学教育学部教授)

実施日	平成25年10月18日	5校時	対象学年	1年	254名
教科等	国語		授業(活動内容)	日常生活の中に見られる古典的伝統	

日常生活の中に見られる古典的伝統

実践の概要

10月18日(金) 第5校時 あずま中学校ふれあいホール

藤本宗利群馬大学教授による未来を拓く特別授業が「日常生活の中に見られる古典的伝統」と題して、ふれあいホールで開催されました。

★講座の内容(抜粋)★

～花は吉野、紅葉は竜田～

桜の名所が「吉野」なら、紅葉の名所は「竜田」(山・川)です。これらは、特定のイメージをともなって、和歌によく詠まれる地名で「歌枕」といいます。

ちはやぶる 神代も聞かず 竜田川

から紅に 水くるとは(在原業平)

～「竜田揚げ」って知っていますか～

肉に片栗粉をまぶして揚げると、白っぽく仕上がります。こういう揚げ物を「から揚げ」と言います(衣をつけない揚げ物という意味で、「空揚げ」が本来の用字ですが、「唐揚げ」とも書きます。)これに対して、しょうゆで下味をつけた後で揚げることで、から揚げよりも赤っぽくなります。その赤い色を紅葉にたとえましたが、そのうえでもう一ひねりを加え、紅葉の名所の「竜田」にちなんで名づけられたのが「竜田揚げ(立田揚げ)」です。だから、これも歌枕の伝統を踏まえているといえます。

～身の回りの言語遊技～

赤い色をしているものを、色の共通性によって「紅葉」とたとえたように、私たちの身の回りには伝統的な「ことば遊び」がたくさん見出せます。

◎語呂合わせ(掛詞) <例> 試合に勝つ(カツ) 合格(五角) 弁当

◎関係づけ(縁語) ・似たものをとえる(見立) <例> 紅葉おろし

・よく合う組み合わせ(寄合)

<例> 松竹梅・唐獅子牡丹・桐と鳳凰・竹に雀



実践の成果

講座受講の対象となった1年生254名は、少し難しいのではと心配しましたが、藤本教授の軽妙な語りに関心した様子で興味深く聴き入っていました。

日常生活で使ういろいろな言葉の語源は、古典の中にあることを知り、古典の世界の奥深さに、知的好奇心を強く揺さ振られた生徒が目立ちました。

★生徒の感想★

○藤本先生の話聞いて、日本人はずいぶん日本語で遊んでいるなあと思いました。普段使っている日本語の意味を調べると、おもしろいことがたくさんあると知りました。今までよりは、国語に興味を持ちました。

○私は保育園の時から、花札をやっていたので花札のことは、知っていました。だけど、今日、藤本先生に話をさせていただいたおかげで、いままで知らなかったことをたくさん知ることができました。今度改めて、藤本先生に教えてもらった花札のことを考えて、遊んでみようと思います。

(様式3)

平成25年度「未来を拓く特別授業」実践報告書

学校名 伊勢崎市立あずま中学校

講師氏名等(職種)

中山 政美

(ティアラ21レディースクリニック院長)

実施日	平成25年11月29日 5校時	対象学年	2年245名
教科等	保健体育	授業(活動内容)	正しい性の知識

実践の概要



11月29日(金)に行われた未来を拓く特別授業では、ティアラ21女性クリニック院長・思春期オープンハウス理事長である中山政美先生を迎え、『「まだ知らないの もう知ってほしい 思春期の心と身体の男女の違い」～ Dr.まさみからのメッセージ～』という演題で講演会を行なった。

「命の誕生」、「男女の身体や気持ちの違い」、「望まない妊娠」など、思春期まっただ中の子どもたちにとって向き合うのがなかなか難しい内容であるが、先生のユーモラスなトークと演壇を離れ、生徒の間を歩きながら生徒ひとりひとりに語りかけるような話は、説得力があった。

まず最初に、「はるかなる命の旅路」ということで、命の原点から、新生児としてこの世に誕生するまでについての話があった。生徒たちはこの美しく壮大な創造のドラマに、興味深く聞き入っていた。

続いて、男子には女子に対する配慮の必要性、女子には自身の心や体の変化について正しい理解をする必要性を話していただいた。どれも思春期の悩みや性についてのたいへん示唆に富んだ内容で、あっという間に時間が過ぎた。



実践の成果

こうした話の中に込められた「正しい性の知識と理解、生命の尊さ、性情報を的確に判断できる力を身につけ、それを生かし、自分の人生に活用できる人になってほしい」という先生の思いは生徒たちに十分に伝わり、生徒の書いた感想の中には次のような思いがたくさん書かれていた。

生徒の感想

- 男性は女性の身体に責任を持つとすることをしっかりと教えてくれたことに感謝をしています。今後はこのことを大切に覚えておきたいと思いました。
- 妊娠のことをよく知ることが出来ました。普段には聞くことが出来ないことを聞いて良かったです。軽い気持ちで性行為をするのは良くないと思いました。自分の身体のことをもっと考えて大切にしようと思いました。お母さんとも話したいと思います。
- 僕や皆の命は望まれて産まれてきたことを改めて知りました。これから自分の命を今までよりもっと大切にしようと思います。

実施日	平成26年3月4日 5校時	対象学年	2年 245名
教科等	総合	授業(活動内容)	夢に向かって生きる

「夢に向かって生きる」

実践の概要 3月4日(火)5校時に上武大准教授、上武大駅伝部監督の花田勝彦先生を招いて、「生き方」について学ぶ「未来を拓く特別授業」が2年生を対象に開催されました。



ご自身の経歴、日本選手権優勝のDVDを見ながらのお話に始まり、瀬古監督との出会いや大学時代に学んだことなど、どれも日々の生活に通じる奥の深い話ばかりで、いくつもの言葉が胸に残りました。

『心を動かすマラソンを』・・・・・・・・

今までで一番嬉しかった言葉は「勝てなかったけれどレースを見て感動しました。」という言葉。人の心を動かすレースをするために、本気で世界を目指すと24時間陸上のことを考えて生活していても足りない。

『努力は他者評価である』・・・・・・・・

スポーツの世界では結果がでないと認められない。自分で頑張っていると思っただけの選手は向上しない。「努」という

言葉は「奴」の「力」。他者から評価されるものである。

『信頼関係を築く』・・・・・・・・

まず、両親と何でも言い合える間柄になる。親は子どものことを何よりも大事だと思っている。親友と呼べる仲間、相手を良くしてあげたいと思える友達をもってほしい。

『視野を広げる』・・・・・・・・

視野の広さがないとチャンスにも気がつかず、そのチャンスを掴むことができない。上武大が箱根駅伝で勝負するには正攻法じゃ勝てないので、視野を広げ、考え方を変えて工夫している。

『無知の知』・・・・・・・・

分からないことやできないことを、分かったふりやできたふりをせず、謙虚に認めて努力していくことが大事。

『夢は大きく』・・・・・・・・

箱根駅伝に出場したいという目標だと、補欠に選ばれたところで守りに入ってしまう。自分が考える目標よりも一つ上を設定して目指していくことで、夢が叶っていく。

『他が自分のために何をしてくれるかではなく、自分が他のために何ができるか』・・・・・・・・

箱根駅伝を目指すために多くの人にさそわれて上武大学の監督として群馬に来たが、選手集めや、さまざまなことで苦労することが多かった。そんな中、ジョンFケネディの言葉を思いだした。何かしてもらえることを求めるのではなく、自分が群馬や大学など、まわりに何が貢献できるのかと考えるようになった。



実践の成果<生徒の感想>

- 私は目標が部活動で団体メンバーに入ることでしたが、今その目標が叶い、抜かれないように守りに入っているなどと思います。これからは目標を高く持ち、団体メンバーで県ベスト8に入りたいです。
- 私も先生が見ていないと少し手を抜いていたと思います。私は目標を高く持ち、県大会1位を目指して、誰が見ても見てなくても、本気を出せるようにしたいです。
- 「ここまでやった」と思ってしまうことはよくあります。しかし、そこで終わりにせず、努力を続けることでもっと成長できるのだと感じました。
- 2か3しか見てもらえないのなら、残りの7や8は自分で埋めろという言葉が印象に残りました。
- 「努力」という字は「奴はすげえな」と他人に認められて初めて努力したこととなるという話が印象に残りました。自己満足ではダメだということ学びました。
- 先生のお話は面白くて、なおかつ分かりやすく、気付かされることばかりでした。先生の言葉をいつも心に置き、これから何かに息詰まったら思い出して頑張れるようになりたいです。

(様式3)

平成25年度「未来を拓く特別授業」実践報告書

学 校 名 高崎市立 吉井中央中学校

講師氏名等(職種) 荒井直樹 氏 (前橋育英高校野球部監督)

実施日	平成26年2月10日	対象学年等	全学年(321人)
教科等	特別活動(学校行事)	授業(活動)名	立志のつどい

○実践の概要

本校学校経営の重点であるキャリア教育では、将来の夢・希望を持ち、それに向かって努力する生徒の育成を図っている。

そこで、昨夏甲子園大会全国制覇を果たした前橋育英高校野球部監督の荒井氏をお迎えし、「夢をかなえる」と題して講演をしていただいた。

先生は、DVDの映像で大会や練習の様子を紹介しながら、野球の話を通して、人間としての生き方について言及していただいた。

<講演の内容>

「凡事徹底。当たり前のことを徹底的にやる。」

「結果は大したことではない。全力で取り組むことが大切である。」

「失敗したら、その次の行動が大事。」

「相手の気持ちを考えて、自分が動く。それが総合力となる。」

「努力をすることは一生つかえる技。」

○実践の成果



当日の講演の様子

<生徒の感想>

「今日は前橋育英の監督が講話をしてくれました。私はわくわくしていました。なぜなら私は大の甲子園ファンで、優勝したチームの監督と会い、話を聞けるということがとても貴重だと感じたからです。話の中で私が印象に残ったのは“自分の弱さを認める”ということです。それが強くなるための一歩であるということも知りました。“勝つ”というよりも“負けない”という心で一日一日を大切に昨日の自分を越えていきたいです。」

平成 2 5 年度「未来を拓く特別授業」実践報告書

学 校 名 藤 岡 市 立 東 中 学 校
 講師氏名等(職種) 柴山聡一郎 様 (ガス販売会社社長)
小林 宣行 様 (住宅外壁施工会社社長)
黒柳 隆 様 (写真館経営)

実施日	平成 2 5 年 6 月 1 8 日	対象学年等	2 年 (1 5 8 人)
教科等	総合的な学習の時間	授業(活動)名	社会人に聴く会

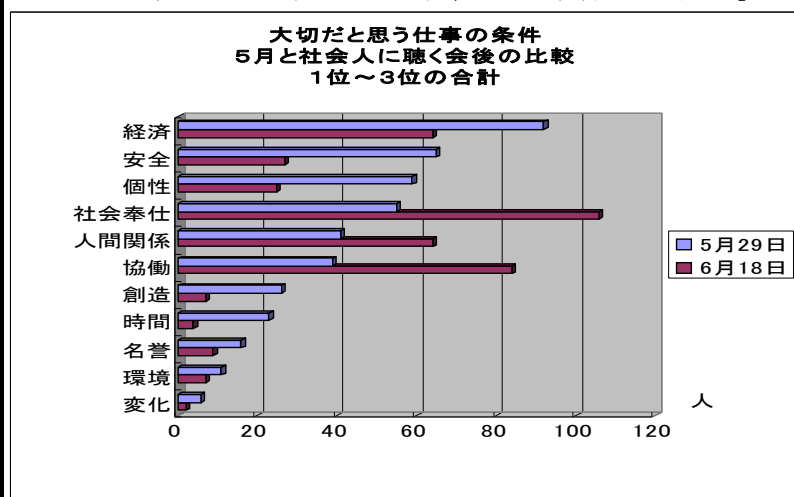
○実践の概要

9月に実施するチャレンジウィークの事前学習として、社会人としての心構えを持ち職業意識を高めていくことを目的として実施した。3名の社会人を招聘し、お話をいただいた後、質疑応答の時間を設けた。

講師からは、挨拶が印象を決める、人は人に支えられて生きている、感謝の気持ちを持つ、仕事のために生きるのではなく幸せになるために働く、必要とされる喜びを感じる、資格は大切など、生徒達の心に響くお話をしていただいた。

○実践の成果

5月の学活で「大切だと思う仕事の条件 11 項目」に順位を付けた。5月と今回の事後アンケートを比較すると、



生徒の意識が変わった部分が見えた。5月に1番大切だと思った「経済」が3番目に下がった。また、4番目だった「社会奉仕」が1番に上がり、6番目だった「協働」が2番目に上がった。「人間関係」も大切だという気持ちが強くなったことが読み取れた。

〈生徒の感想より〉

○ 社会や人のために働きたい気持ちをもっと強くなりました。

私もやりがいのある仕事に就きたいです。挨拶はもっと大きな声でしようと思いました。親にも感謝の気持ちを持ちたいです。将来、立派な社会人になるよう3人の方の話を聞いて頑張ろうと思いました。



○ 柴山さんは、仕事を通して人との関わりをすごく大切にしているんだと思いました。ただ仕事をしているのではなく、これからの目標をちゃんと持って、今も努力しているところがすごいなと思いました。私もチャレンジウィークで、仕事を通して、人との関わり

を学んでこようと思います。目標をちゃんと立てていきたいです。

○ 自分、家族、会社員、お客さんの全てを幸せにするために働くことは、とってもしごくいいことだと思いました。幸せになるためや幸せにするために仕事をするのは、とてもかっこいいと思いました。チャレンジウィークでは、お客さんが幸せになれるように頑張りたいです。難しい事かもしれませんが、努力すればきっとできると思います。

(様式3)

平成25年度「未来を拓く特別授業」実践報告書

学校名 藤岡市立東中学校

講師氏名等(職種) 金澤朱美様 (ヨシモトポール (株) 総務グループ室長)
坂本明男様 (ヨシモトポール)、野路史恵様 (同社)、金子理恵様 (同社)
赤石亜衣様 (同社)、飯野眞弓様 (NTT 東日本群馬課長代理)、丸岡ひとみ (同社)

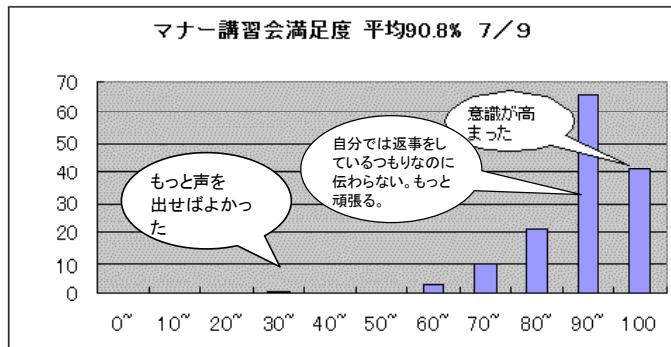
実施日	平成25年 7月 9日	対象学年等	2 年 (158 人)
教科等	総合的な学習の時間	授業(活動)名	マナー講習会

○実践の概要

9月に実施するチャレンジウィークの事前学習として、社会人としての心構えを持ち職業意識を高めていくことを目的として実施した。7名の社会人を招聘し、『生徒と社会人の違い』のお話をいただいた後、『見て、聞いて、やって』をテーマに立ち居振る舞いの実技と電話対応の実技の時間を設けた。

講師からは、働くために必要な構えや「企業で働くことは、一つの目的に向かってともに働くこと」等、話していただいた。また、立ち居振る舞いと電話対応の実技では、一人一人の評価をしていただき、その場でアドバイスもいただいた。

○実践の成果 「マナー講習会」生徒の満足度平均は、90.8%だった。「思っていた以上に緊張した」「片手でカードを渡してしまった」など、実際に動いてみて、初めて気が付くような反省点をあげた生徒がたくさんいた。生徒達は充実した時間を過ごすことができた。



〈生徒の感想より〉

○礼の深さとか、座り方を改めて学ぶことができたので良かったです。また、個々で学んだことを続けて、チャレンジウィークの時にできるように頑張りたいです。

○チームワークのために、どんなときでも自分を高められるようにしたい。普段からの挨拶、返事、姿勢が大事だとわかった。

○「拝」を相手を見てきちんと言うこと、挨拶を明るく、いつも、先に、続けてできることなど、基本的なことができていないと、いくら後で他のことが良かったとしても駄目だと思う。「自分自身のために、自分自身を向上させようとする気持ちがあること」がとても大切だと思った。

○人のためにやることが大事なんだと思った。人に伝えるときに恥ずかしがらず挑戦すればいいんだと思った。

○自分も社会のために役に立ったり、一人ではなくみんなで協力できるような仕事に就いてみたいと思いました。

○社会の礼儀って厳しいなと思いました。印象に残ったのは、「チームワークとは、個の技術があってこそできる」ということです。人のために働けるようにしっかりとしたマナーと技術を身に付け、チャレンジウィークで頑張りたいです。



平成25年度「未来を拓く特別授業」実践報告書

学校名 藤岡市立北中学校
講師氏名等(職種) 中嶋 勝利 様 (販売業)
外丸 量也 様 (消防署)

実施日	平成 25年 7月 11日	対象学年等	2年 (189人)
教科等	総合的な学習の時間	授業(活動)等	職業人から話を聞く会

○実践の概要

総合的な学習の時間に、地域社会で活躍する職業人2名(販売業、消防署)を招き、お話をしていた。 (当初は3人を予定していたが、仕事の都合上1名欠席となった。)

この授業では、以下の2点をねらいとして行った。

- * 地域社会で活躍する職業人の話を通して、様々な生き方にふれ、これからの自己の生き方について深く考えていく手がかりとさせる。
- * 視点をもった聴き方をさせることにより、職業人として大切なこと等、自分の考えを確かめたり、上げたりして、自分の課題を追求する活動の一つとさせる。



講演後には、質疑応答の時間を設け、より「職」についての考えを深めた。

最後に、生徒より、それぞれの講師へ御礼の言葉を述べた。

後日、それぞれの講師へ生徒から御礼の手紙を送った。

○実践の成果

講演を聞き、生徒は職業による職業観の違いや、自分のためだけでなく自分と関わる人々の幸せを考えた仕事の在り方や生き方、というものを考える機会になったようである。また、職業に対して興味を高め、自分の夢や目標に向かって、目の前のことをひたむきに努力することが、今の自分にとって何よりも大切なことであるということに気づくことができたといえる。

【生徒の感想】

- ・中嶋さんの話を聞いて、人と人との関わりがとても大切なんだとわかりました。そして、あいさつ・笑顔・素直な心をもつことが、働く上で必要だとわかりました。自分にとってとてもプラスになるお話でした。
- ・外丸さんのお話で、「自分で決めたことは最後までやりとげる。決してあきらめない。」という言葉聞いて、私も将来の夢をあきらめないで、部活や勉強、物事をがんばりたいと思いました。



(様式3)

平成25年度「未来を拓く特別授業の実施について」実践報告書

学校名 藤岡市立北中学校

講師氏名等 ヨシモトポール 金澤朱美様 坂本明男様 野路史恵様 金子理恵様 所聡美様

NTT 東日本 飯野眞弓様

実施日	平成 25年 8月 20日	対象学年等	2年 (189人)
教科等	総合的な学習の時間	授業(活動)等	マナーアップ講習会

○実践の概要

総合的な学習の時間に、ヨシモトポール株式会社から6名、NTT 東日本から1名の講師をお迎えし、社会人としてふさわしい立ち居振る舞いや電話応対などのマナーについて、チャレンジウィークの事前勉強として実践を交えながら教えていただいた。この授業では、以下の2点をねらいとして行った。

* 社会人としてのマナーやチャレンジウィークを通して中学生に学んで欲しいこと、身につけて欲しいことなどについて、専門知識を有する方々から指導を受け、実際の職場体験学習に向けて、意識と意欲の高揚を図る。

* 社会人講師の指導の下、社会人として必要とされる基本的なマナーや挨拶の仕方、電話応対等について実践練習(ロールプレイ)を通して学び、その後の自分に役立つ知識や技能を身につける。



「働くための心構え」の講演後、立ち居振る舞い、電話応対について全員で講習を受けた。全体の講習後、一人ずつ体育館ステージ上で立ち居振る舞いの実技、各教室で電話応対の実技を行った。全員の実技終了後、講師の先生方からアドバイスをいただき、さらなるマナー向上、意識や意欲の高揚を図った。最後に、生徒より講師の先生方へ御礼の言葉を述べ、後日、生徒から御礼の手紙を送った。

○実践の成果

チャレンジウィークを控え、またマナー講習会の直後には事業所への事前打ち合わせが予定されており、講習を受けたことを即実践に生かせるという意味で、大変有効な講習会であった。生徒たちは社会で働くことの厳しさを実感しながら、働くために必要な心構えを学ぶことができ、また座学だけでなく実際のシチュエーションに応じて教わったことをやってみることで、意識や意欲の高まりが感じられた。

【生徒の感想】

・社会に出ても、今やっている挨拶や返事をしっかりすることが大切だということが分かった。今からきちんと続け、社会に通用する人間になっていきたい。また、自分自身を向上させるために3Cを忘れずチャレンジウィークに行ってきた。

・電話応対を1人でするのはとても緊張したが、落ち着いてゆっくり話せばいいとアドバイスしていただき安心した。立ち居振る舞いもチャレンジウィークだけでなく、日頃の生活の中でも生かしていきたい。



平成25年度「未来を拓く特別授業」実践報告書

学 校 名 藤岡市立小野中学校

講師氏名等(職種) 森川澄男(日本ピア・サポート協会会長)

実施日	平成25年 5月22日	対象学年等	1・2・3 年(311人)
教科等	特別活動	授業(活動)名	球技大会を成功させる絆づくり

○実践の概要

「球技大会を成功させる絆づくり」をテーマにした特別授業。

ねらいは、「球技大会を成功させ、学級の仲間との絆作りに向けた話し合い」を行うこと、そして2,3年生は、特に、学年に応じたこれまでの経験を基に、どんな言葉かけが温かく、やる気が出るのかを考えた。1年生は初めての球技大会の不安を解消し、学級の仲間作り、絆作りに向けた言動に気付くことをそれぞれの学年のねらいとした。

生徒による司会進行により、授業はスタート。森川先生の紹介に始まり、まず、「ピア・サポートとは何か」について、講話をいただいた。その後、雰囲気作りのために「アドジャン」を3人組で行った。そして、いよいよピア・サポート活動。①球技大会の目的 ②球技大会で楽しいことや嫌なことについて ③球技大会をよりよいものにするには ④各団長から発表 ⑤森川先生より の順で話し合い活動を行った。球技大会をよりよくするために、各班で集団決定したことを全体で発表したことで、自分たちの班では出なかった他の班の意見・考えに触れ、さらに自分の考えの幅を広げることができた。

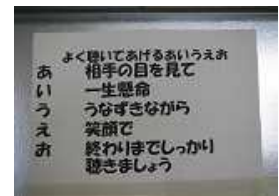


○実践の成果

森川先生のピア・サポートに関する講話では、人が人を支援することや笑顔で話すことの大切さを学ぶことができた。導入時に行ったアドジャンでは、下級生にやり方を教えたり、グループのメンバーと楽しく会話する姿が見られ、すでにピア・サポートのことを意識した子ども達の取り組みが見られた。球技大会を楽しく行うための話し合いでは、下級生は先輩のすごさに直に触れ、「ミスをしてもしめめない」「励ましてあげる」「言葉かけを多くする」など、多くの具体的な行動をまとめることができた。

さらに、全体を通しての感想では、「コミュニケーションをとることで、グループでの活動がより楽しくなる」「これからはあまりしゃべったことのない人とも会話していきたい」「困った子に手をさしのべたい」「人と話すときに「あいうえお」を大切にしたい。」「積極的に声かけをして温かい学級を作っていきたい」「笑顔あふれる小野中にしたい」など、学んだことを積極的に生かしていこうとする子ども達の感想が数多く見られた。一時間ではあったが、開始時と終了時では、子ども達の多くが確実に優しくなっていくのを感じた。

[文責 教頭 櫻井 雅明]



(様式3)

平成25年度「未来を拓く特別授業」実践報告書

学 校 名 藤岡市立小野中学校

講師氏名等(職種) 金澤朱美、坂本明男 (ヨシモトポール株)
飯野真弓 (NTT東日本)

実施日	平成25年 6月 5日	対象学年等	2年(108人)
教科等	総合的な学習	授業(活動)名	社会人としての条件を学ぼう

○実践の概要

- ・チャレンジへ向けての心構え
- ・マナーは相手への心遣い
- ・立ち居振る舞いの基本全体練習
- ・一人一人実践
 - ①課題の提出
 - ②体験日誌の提出



○実践の成果

<教師の感想>

金澤さん

見事です。最敬礼の全体練習

金澤講師からの講話の中で、「生徒と社会人のちがいが」やチャレンジを成功させるキーワードは「Challenge挑戦, Chance好機、Change変革＝自分自身のために、向上させる気持ちがあること」を指摘していただき、教師側も勉強になった。また、立居振る舞いについての実習では、服装や座り方、礼のしかたなど基本的なことを指導していただいたが、我々の指導よりも適切であり、指導前後で生徒全体の立居振る舞いが美しく変化しました。体験を通して社会の厳しさを感じることができた。日常生活でマナーを意識していくきっかけとなった。

<生徒の感想>

- ・社会はとても厳しいと分かりました。「立つ」「座る」などの動作にも気を付けることがたくさんあって、姿勢を保つのに苦労しました。上に上がって実技をする時は緊張して堂々とできませんでした。言われたことをふだんの生活で生かしていきたいです。
- ・マナーアップ講習会で、一つ一つの動作に気持ちを込めて行うこと、相手の目を見て自分の気持ちを伝えることが大切だと思いました。



・立ち居振る舞いは厳しく疲れることばかりだったが、身が引き締まった。ステージの練習では、頭の中が真っ白になり何も分からなくてガチガチになってしまった。以上のことからがまん冷静さが必要だと感じた。

・私は礼の時、頭が下がっているとよく言われました。やり方を教わってきれいな礼をしたいと思い練習しました。実技終了時に「おじぎが上手でした。」と言われてうれしかったです。

- ・立派な社会人になるために、きちんとした敬語が使えるようになりたいです。
- ・社会はとても厳しいと分かりました。「立つ」「座る」などの動作にも気を付けることがたくさんあって、姿勢を保つのに苦労しました。上に上がって実技をする時は緊張して堂々とできませんでした。言われたことをふだんの生活で生かしていきたいです。

(様式3)

平成25年度「未来を拓く特別授業」実践報告書

学校名 藤岡市立小野中学校

講師氏名等(職種) 黒柳 隆 (黒柳写真館)

根岸 正夫 (農業) 池田真人 (消防士)

実施日	平成25年6月12日	対象学年等	2年(108人)
教科等	総合的な学習	授業(活動)名	社会人から学ぶ会

○実践の概要

<主な仕事内容> (黒柳 隆様)



- ・父の後ろ姿を見て写真業を選んだ。
 - ・写真撮影業で、記念の写真や卒業アルバムの作成等を行っている。
- <楽しさ、やりがい、大変さ>
- ・お客様に満足してもらえる写真が撮れたときにやりがいを感じる。
- 100年間保管してもらえる作品を作ることが目標にしている。
- プロとして日々技術の向上に努力している。

<チャレンジウィーク中に期待していること>

- ・目標は無限であるが、かなえるための時間は有限である。
- 感謝の気持ちでチャレンジウィークに臨んでほしい。

<主な仕事内容> (根岸 正夫様)

- ・苺栽培 消費者に喜んでもらえる、安心・安全でおいしい苺作りのため工夫をしている。

<楽しさ、やりがい、大変さ>

- ・努力がストレートに反映される。責任は全て自分にある。自然災害を受けることがある。

<チャレンジウィーク中に期待していること>

- ・やりたくないことの中にも学ぶべきことがある。あいさつ返事ができることが一番大切。



<主な仕事> (池田 真人様)

- ・火災対応 ・救助活動 ・救急活動 ・予防事務

<働く意義>

- ・現場で役に立つように、仲間と協力して日々訓練する苦労
- ・無事救助できた喜び、難しくてもやり遂げられた達成感

<チャレンジウィーク 期待していること>

- ・規律と礼儀、あきらめない気持ちをもつこと

○実践の成果

<生徒の感想>

・どんな職業でもしっかりあいさつをすることが大切だということを知りました。元気よく働くことで同じ仕事をしていても楽しく働くことができるのだと思いました。忙しい中、時間を作って受け入れてくれるので、ふさわしい態度で何でもしっかりと取り組みたいと思いました。

・仕事は遊びではなく、地域や人の役に立つためにやることだと知りました。

・働くことはふだんの生活と深くかかわっているということです。規則正しく生活することも目標をもってやることも全部つながっていると感じました。

・学んだことは、いつも根気強くやること、プライドをもって真剣に取り組むことです。実習では、あいさつや返事、声の反応を意識して気持ちを伝えられるように頑張りたいです。

<教師の感想>

・社会人の立場から、働く意義や中学生へのメッセージを具体的な内容で伝えただいたことで、生徒はよい刺激を受け、チャレンジにウィークに向かう姿勢をつくることができた。大きな成果があったと考える。

(様式3)

平成25年度「未来を拓く特別授業」実践報告書

学 校 名 藤岡市立小野中学校

講師氏名等(職種) かねざわあけみ さかもとあきお あんどうえつこ ところ さとみ
金澤朱美 坂本明男 安藤悦子 所 聡美

(ヨシモトポール株式会社)

実施日	平成25年 7月10日	対象学年等	2年(108人)
教科等	総合的な学習	授業(活動)名	社会人としての条件を学ぼうⅡ

○実践の概要

(1) 金澤講師の「ビジネス電話の基本」について、講話を聞く。

「耳だけのコミュニケーションは受け手によって変わってしまう。言葉を少し足すことで誤解少なくすることができる。相手に伝わるように、具体的にはっきり話すことが大切」等、電話対応の時に気を付けることを具体的に教えていただいた。

(2) 電話の応対についての実習

電話の応対について講師の先生の模範をみて、一人ひとり実習する。

チャレンジウィークの事前打合せのポイントを想定して、基本的な対応の仕方を企業研修用の電話を3台使用して実習した。講師は県の電話対応コンクール上位入賞者で、一人ひとり指導講評を頂いていた。



○実践の成果

〈教師の感想〉

- 電話の応対では、指導してくださった方々が、電話対応の県大会で上位に入賞しただけあって、デモンストレーションもなめらかで感心した。生徒一人ひとりのアドバイスでは、前回の礼儀をふまえた所作に加え、言い方、声のトーンにまで細かく指導してもらい、社会の厳しさを実感できたと感じる。
- 小野中生はあいさつはよくできるが「拝」の返事が弱いことなど、生徒が普段の生活の中で意識していない点、教師の指導も抜けていた点に気付かされたので今後の指導に役立てていきたい。
- 生徒なりに一生懸命練習をしていたが、判定は厳しかった。電話対応は事務的に伝えればよいのではなく、相手が見えないからこそ、言葉に感情を込めて伝えることが大切なのだと感じた。

〈生徒の感想〉

- 僕は電話をする時は「もしもし」を言うのは当たり前だと思っていたので、今日の講義はためになりました。実践練習は簡単だと思っていたけれど、実際には緊張してしまい、早口になってしまった。チャレンジの時に困らないように、ゆっくりはっきり伝えることを練習していきたい。
- 「拝」という相づちができなかったので、しっかりと「拝」といえるようにしたいです。「ありがとうございます。」「お願いします。」など心を込めて言葉からしっかりと言いたいです。



平成25年度「未来を拓く特別授業」実践報告書

学校名 藤岡市立西中学校

講師名 金澤朱美 様（製造業）

実施日	平成25年7月3日	対象学年	2年生（137名）
教科等	総合的な学習の時間	授業名	マナーアップ教室

○実践の概要

(1)講演会（35分）

①中学生とは何だろう、人生のどんな時期なのであるかということについての説明。

「生」とは、「生きる・命を保つ」、「徒」とは、「歩く・走る・仲間・先生について習う」という意味がある。中学生とは、1人で生きていくための準備期間である。

②働くための心構えとして、まず身に付けて欲しいことは「あいさつ」。

挨拶は、人と人を結ぶ潤滑油であり、まず自分から行うべきである。「拝」と相手を見て言えること。「明るく」「いつも」「先に」「続ける」ことが大切である。

③働くための心構えの2つ目として、3つの「C」を持つことが大切。

3つの「C」とは、チャレンジ=挑戦、チャンス=好機、チェンジ=変革である。

以上の3点についての講話があった。また、働くということは、「当たり前のことを、当たり前に行える行動力を持つこと。」「自分の役割を果たすこと。」「企業においては、1つ目標に向かって全員が協力し、目的を達成すること。」であると締めくくられた。

- ・身だしなみ、正しい立ち方、礼の仕方について、講師実演を交えて指導。
- ・入室して書類の受け渡し、そして退室する方法について、講師実演を交えて指導。
- ・電話対応の仕方について、講師による実演と代表教員による実演。

場面Ⅰ：職員室への入室と書類の受け渡し

- ・ノックを3回行い、「どうぞ」の声を確認し、「失礼します」と入退室の練習をする。

場面Ⅱ：電話の対応の仕方について

- ・「自転車の故障で出社が遅れる」「寝坊により出社が遅れる」「体調不良による欠勤」「忘れ物で出社が遅れる」の4つのケースの中から指示されたもの1つについて電話対応を行う。

○実践の成果

・マナーアップ講習終了後、生徒は職員室への入室や退室の際のマナーを意識できるようになった。継続指導することで身に付けていけると考える。また、総合的な学習の時間で職場別打合せの場面になると丁寧な言葉遣いで書類の受け渡しができるようになった。

・生徒の感想は「壇上はたいへん緊張した。しっかりやろうとしたが、やりなれないことなので間違えそうになった。」「これから、いろいろな場面でやらないと身につかない。」との感想を述べているものが多い。「チャレンジウィークでは、今日の体験を生かして頑張りたい。」という感想も多く、チャレンジウィーク事前指導の一環として「マナーアップ講習会」を位置づける意義は大きいと考える。

(様式3)

平成25年度「未来を拓く特別授業」実践報告書

学 校 名 藤岡市 立 鬼石中 学校

講師氏名等(職種) 金澤 朱美 他2名 (ヨシモトポール(株))

実施日	平成25年7月4日	対象学年等	2年 (53人)
教科等	総合的な学習の時間	授業(活動)名	マナー講習会

○実践の概要

1. 講演会「生徒と社会人の違い」

(1) 「生徒」という漢字の意味

(2) 働くための必要な心構え

①返事がしっかりできること

②あいさつがきちんとできること

③3つのC “Challenge, Chance, Change”

④当たり前のことを、当たり前に行える行動力を持つこと

⑤企業で働くということは、一つの目的に向かって、共に働くこと

2. 実演会

(1) 立ち居振る舞い

①服装のチェック

②きれいに立つ

③きれいに座る

④速やかに立つ

⑤速やかに座る

⑥礼(お辞儀)の4種類(15度, 45度, 75度, 90度)

(2) 電話対応

3. 実技

(1) 職員室への入室から、用事を済ませ、退室までの動き

(2) 職場体験学習のための事業所への電話のかけ方

○実践の成果

1. 授業での始業・終業のあいさつの仕方に意識を持って行えるようになった。

2. 職員室への入退室の仕方に意識を持って行えるようになった。

3. チャレンジウィークへの意識が深まった。



(様式3)

平成25年度「未来を拓く特別授業」実践報告書

学 校 名 富岡市立西中学校

講師氏名等(職種) 舟見匡平様 他新入社員5名

実施日	平成25年10月31日	対象学年等	2年(120人)
教科等	総合的な学習の時間	授業(活動)名	キャリア教育(生き方教育)

○実践の概要

・(株)IHIエアロスペースに今年度入社した社員のうち選抜された5名が「宇宙の未来・あなたの未来」と題した講演を行った。内容は、前半「宇宙開発の未来」という形で宇宙開発の概要やロケットの仕組み、宇宙機器の仕組みなどの説明であった。また、後半は「みなさんの未来」という内容で様々な仕事の内容や適正、夢と現在の関わりなどであった。講演の概要は以下の通りである。

- ・探査衛星の役割は宇宙のことを知ったり、宇宙を役立てる働きがある。また、地球を調べる働きもある。
- ・衛星と生活の関わりは、カーナビ・天気予報・衛星放送など身近にたくさんある。
- ・実験衛星(宇宙ステーション)は宇宙での生活や宇宙でしかできない実験をしている。
- ・イプシロンロケットはIHIエアロスペースで作った。
- ・イプシロンロケットは小型で組み立ては7日ででき安価である。
- ・ロケットが飛ぶ仕組みや衛星の仕組みを身近な風船と花火とコマでわかりやすく説明した。
- ・クイズ形式でロケットの速さや燃料の比率、イプシロンロケットの組み立てなどをわかりやすく説明した。
- ・イプシロンロケットの打ち上げ動画で、打ち上げ成功の感動が伝わった。
- ・IHIエアロスペースでの仕事をわかりやすく説明し、設計・製造・試験それぞれの役割や適正をわかりやすく説明した。(燃焼試験を動画で説明)
- ・もの作りをサポートする仕事としては、契約・部品の購入お金の管理・人の管理などの仕事がある。それぞれの職務の内容や適正をわかりやすく説明した。
- ・宇宙開発に関わりたいという夢をあきらめずに追求めることで現在に至った社員の例を示し、夢を大切にすることあきらめないことが大切である。
- ・将来の仕事について迷いながら、様々な経験を活かし、現在に至った社員の例を示し、いろいろなことにチャレンジすることでやりたいことに出会う可能性も広がる。
- ・今の中学生の勉強は、今後の可能性の源泉である。今の勉強は木の根にあたる。勉強することで可能性を広げることができる。また、勉強することで精神的にも成長することができる。

○実践の成果(生徒の感想)

宇宙に興味関心の薄い生徒にもわかりやすい言葉で、身近な話からロケットの仕組みを説明したり、多くの画像や動画を示したりすることで大変わかりやすい講演であった。また、「みなさんの未来」というテーマでの話は仕事には様々な種類があることやそれぞれに適正があること、将来のこと(進路)を考える上で参考となる講演でもあった。以下に生徒の感想の一部を載せる。

- ・夢があった人と迷っていた人を使って私たちにわかりやすく説明して下さったところがよかったです。
- ・宇宙の話は難しくついていけないかなと思っていただけ、とてもおもしろそうでした。
- ・今日の話を聞いて宇宙に興味を持つことができました。
- ・今日は普通では聞けないことをたくさん聞け、映像つきで見られてためになりました。ロケットの飛ぶ映像や人工衛星の映像も見られてとても貴重な時間でした。
- ・自分の未来のことをあまり考えたことがなかったけど、お話を聞いて、焦らずに考えればいいなと思いました。いろいろなことに挑戦し自分に合った仕事を見つけたいと思いました。
- ・イプシロンロケットが小型で高性能であることに驚きました。そんなロケットが群馬県で作られていてすごいと思いました。自分のこれからの進路は、自分の選択肢を増やせるように、自分の苦手な教科を克服できるように頑張りたいです。他人から頼られる人になれるようにしたいです。
- ・中学生の学習が大切だと知ったので、これからは一生懸命努力して自分の将来がよくなるよう精一杯頑張りたいです。



平成25年度「未来を拓く特別授業」実践報告書

学校名 東吾妻町立坂上中学校
 講師氏名(職種) 堀澤 浩司 (C Pプログラマー)
 小林 弘明 (金融業)
 小池 孝 (運輸業)
 上原 芳文 (菓子製造業)

実施日	平成25年7月4日	対象学年等	第2学年(13人)
教科等	総合的な学習の時間	授業(活動)名	未来を拓く特別授業

○実践の概要

4人の講師を招き、パビリオン形式で話をしていただいた。生徒を4つの班に分け、時間を区切って場所を移動しながら、各班が4人の講師の話を聴講した。話を聞いた後は、その職業に就こうと思った理由や必要な資格、その仕事をしてきてよかったと思うことなどについての質問が活発に出された。最後に、お礼も含めながら一人ずつ感想を発表した。各講師の講話の概要は次のとおりである。



堀澤浩司さん(PCプログラマー) [会場:多目的ホール]

自宅や企業に派遣されフリーでコンピュータのプログラミングを行っており、今までに手がけた仕事について、エピソードなどを交え話していただいた。その中でも、仕事をしていて辛かったことはありますか。という質問に対して、一つのプログラミングのミスにより、人の命が失われてしまったエピソードを聞き、PCでの仕事は安全なものというイメージしていた生徒達には大変インパクトが残ったようである。いろいろな例を挙げていただき、大変興味深くお話をうかがっていた。

小林弘明さん(金融業) [会場:多目的ホール]

町内で金融機関の支店長を務めており、生徒達にとっては、普段見慣れている所と言うこともあり、大変興味深くお話をうかがうことができた。さらに、小林さんも、実際の珍しいお札を持ってきて下さったり、お札を数える練習用の紙幣を持ってきて下さったりと、普段ではなかなかできない経験をさせていただいた。金融業は、接客業でもあるため、人との接し方の基本となるお話を、実体験を踏まえ話していただき、生徒達もとても共感してお話をうかがっていた。



小池 孝さん(運輸業) [会場:図書室]

運輸業だけでなく、土建業なども営んでおり、いろいろな経験を踏まえて、さらに坂上中学校の出身ということもあり、昔話を交えながら生徒達にお話をしていただいた。また、多岐にわたりお仕事をしているので、仕事を選ぶために大切なことは何か、という中学生が考えなければいけない重要なお話もしていただいた。生徒達には、小学校時代のスクールバスの会社の方でもあり、バスの運転手さんについてはなしなどもあり、大変真剣に話をうかがっていた。

上原芳文さん(菓子製造業) [会場:図書室]

町内でお菓子の製造・販売を行っており、生徒達も一度は行ったことのあるお店でもあることから、いろいろと興味深くお話をうかがっていた。また、実際の和菓子なども持ってきていただき、その繊細な細工などにも驚かされ、さらに、新しいお菓子を作るにあたっての苦労話なども話して下さり、とても身近にあるお菓子ではあるが奥の深いものであることを実感することができた。上原さんのお話の内容からお菓子に対する情熱が伝わってきて、生徒達にも大変刺激となった。



○実践の成果

2年生のこの時期に、4人の講師から働く意義や職業についての具体的な話、これから身に付けていかなければならないことなどを語っていただいたは、生徒にとって大きな刺激となった。また、夏休みには職場体験も控えており、実際に職場で働く上での心構えを知るのにも大変よい機会となり、今回の特別授業は大変有意義なものであった。

当日の活動の流れ

- 13:30 開会 (進行:生徒)
 - ・ 校長先生の話
 - ・ 講師自己紹介
 - ・ 授業の流れの説明
- 13:45 講師による授業①
 - ・ 職業の説明
 - ・ 生徒による質問, 移動
- 14:00 講師による授業②
- 14:15 (休憩)
- 14:25 講師による授業③
- 14:40 講師による授業④
- 14:55 (休憩)
- 15:00 生徒の感想発表
- 15:10 閉会, お礼の言葉

(様式 3)

平成 2 5 年度「未来を拓く特別授業」実践報告書

学 校 名 沼田市立沼田南中学校

講師氏名等(職種) 卒業生 1 6 名 (高校 1 ~ 3 年生)

実施日	平成 2 5 年 8 月 2 6 日	対象学年等	中学 3 年 (8 1 人)
教科等	総合的な学習の時間	授業(活動)名	3 年進路学習会

○実践の概要

〈ねらい〉

- ・ 中学校 3 年時における進路学習の一環として、高等学校の学習や生活について身近な本校の卒業生から具体的に話を聞き、自らの進路を考える資料の一つとさせる。

〈日程及び内容〉

- ・ 10:45 ~ 開会
- ・ 11:00 ~ 11:35 進路学習会前半 (沼高, 沼女, 高高, 高女, 渋女)
- ・ 11:45 ~ 12:20 進路学習会後半 (高専, 利根商, 利根実)
- ・ 12:25 ~ 閉会

※発表内容 (1 校 6 分程度の発表と 4 分程度の質疑応答)

- ・ 受験体験記
- ・ 高校説明
- ・ 中学生へのメッセージなど

※授業の様子



○実践の成果

〈生徒の様子〉

- ・ 身近な先輩の話ということで、中学 3 年生は興味をもって話を聞いたり、質問や感想を積極的に述べたりしていた。今後の進路選択の良いきっかけになると思われる。

〈生徒の感想〉

- ・ 受験のためだけでなく、高校に行ってから自分のためにも勉強をしっかりとやっていかなければならないと思った。目標をしっかりと持ち、自分にあった進路選択をしなければならなかった。
- ・ どの高校も勉強と部活動の両立を目指し頑張っていた。毎日の予習・復習がとても大切だということがわかった。
- ・ 各高校いろいろな特色がある。多くの先輩達が計画的に勉強することが大切だといっていた。ためになることがたくさんあった。

平成 25 年度「未来を拓く特別授業」実践報告書

学校名 桐生市立梅田中学校

講師氏名等（職種） 小林恭介（梅田福祉会 居宅部長）

服部 克己（コンピュータエンジニア）

実施日	平成 25 年 9 月 24 日（火）	対象学年等	2 学年
教科等	総合的な学習の時間	授業（活動）名	

○実践の概要

- ・ 学年職員から今日の授業の講師の紹介し、職業講話の趣旨説明等をする。
- ・ 2名の講師から 20分程度の時間で、現在の職業の仕事の内容、選んだ理由等、中学生としてこれから心がけて欲しいことなどを話してもらう。
- ・ 何人かの生徒を指名し、講師に質問をし、講師から答えてもらう。
- ・ 代表生徒から講師へのお礼の言葉
- ・ 職業講話の感想をワークシートに記入する。



○実践の成果

・ 生徒にとって興味深い仕事の話があり、講師からの講話をしっかりと聞くことができていた。事前のアンケート等からは、職業や仕事について漠然と考えている生徒が多かった。しかし、授業後の生徒の感想や話から、職業等について興味・関心等を高めることできたようである。また、毎日仕事をする大変さや仕事のやりがいについても理解できたようである。

<生徒の感想>

・ 服部さんのお仕事は研究開発（コンピューターソフトなど）というので、こんな身近にそんなお仕事をやっている人がいるのだと、興味を持ってしまいました。私は海外に興味があって、初めは「この職についたら海外進出も夢じゃないかも」とおもっていたけど、開発まで何年もかかるとかプレゼンテーションの話聞いて、仕事をするって簡単そうだけど大変なことなのだと改めて感じました。

・ 目指していた夢が違うことに気づいて介護士になったというのを聞いて、いろんな仕事をやるのも、悪くないと思いました。また、仕事のやりがいが「施設の方の笑顔」を見た時と聞いて、介護福祉はとてもやりがいのある仕事だと思いました。